

環境庁委託

第2回自然環境保全基礎調査植生調査集計整理作業

## 植生図凡例(主要群落)解説

1980

アジア航測株式会社

目 次

I. 寒帯、高山帯自然植生 ----- 1

- 10100 高山低木群落 ----- 1
- 10200 高山ハイマツ及び風衝草原 ----- 3
- 10300 雪田草原 ----- 5

II. 亜寒帯、亜高山帯自然植生 ----- 7

- 20100 エゾマツ-トドマツ群落 ----- 7
- 20400 エゾマツ-ダケカンバ群落 ----- 9
- 20500 シラビソ-トウヒ群団(→20502 シラビソ-トウヒ)群落 -----
- 20501 オオシラビソ群落 ----- 11
- 20502 シラビソ-オオシラビソ群落 ----- 13
- 20503 コメツガ群落 ----- 15
- 20600 ササ-ダケカンバ群落 ----- 17
- 20800 ミドリユキササ-ダケカンバ群落 ----- 19
- 21100 ササ自然草原 ----- 21
- 21300 ウラジロヨウラク-ミヤマナラ群団 ----- 23

III. 亜寒帯、亜高山帯代償植生 ----- 25

- 30100 カサ群落 ----- 25
- 30300 伐跡群落 ----- 27

IV. ブナクラス域自然植生 ----- 29

- 40100 チシマササ-ブナ群団 ----- 29
- 40101 ヒメアオキ-ブナ群落 ----- 31
- 40102 クロモジ-ブナ群落 ----- 33
- 40103 マルバマンサク-ブナ群落 ----- 35
- 40200 スズタケ-ブナ群団 ----- 37
- 40201 ヤマボウシ-ブナ群落 ----- 39
- 40203 イヌブナ群落 ----- 41
- 40208 ツガ-コカンスゲ群落 ----- 43
- 40300 エゾイタヤ-シナノキ群落 ----- 45

- 40500 ヒノキアスナロ群落 ----- 47
- 41300 ヤナギ低木群落 ----- 49
- 41500 ハンノキ群落 ----- 51
- 41600 ヤマハンノキ群落 ----- 53
- 41700 自然低木群落 ----- 55
- 41703 ヒメマシメブシ-タニウツギ群落 ----- 57
- 41800 自然草原 ----- 59

V. ブナクラス域代償植生 ----- 61

- 50100 ブナ-ミズナラ群落 ----- 61
- 50300 クリ-ミズナラ群落 ----- 63
- 50900 ササ草原 ----- 65
- 51000 ススキ群団 ----- 67
- 51400 伐跡群落 ----- 69

VI. ヤブツバキクラス域自然植生

- 60100 モミ-シキミ群落 ----- 71
- 60202 ツガ-ハイノキ群落 ----- 73
- 60400 サカキ-ウラジロガシ群落 ----- 75
- 60401 イスノキ-ウラジロガシ群落 ----- 77
- 60500 ケヤキ群落 ----- 79
- 61000 サカキ-コジイ群落 ----- 81
- 61301 ヤブコウジ-スタジイ群落 ----- 83
- 61302 ミミズバイ-スタジイ群落 ----- 85
- 61302 スタジイ-タイミンタチバナ群落(→61302 ミミズバイ-スタジイ群落)
- 61304 ホソバカナワラビ-スタジイ群落 ----- 87
- 61305 リュウキュウアオキ-スタジイ群落 ----- 89
- 61314 ケナガエサカキ-スタジイ群落(→61305 リュウキュウアオキ-スタジイ群落)
- 61401 イノデ-タブ群落 ----- 91
- 61402 ムラシアブミ-タブ群落(→61401 イノデ-タブ群落)
- 61700 ウバメガシ群落 ----- 93
- 61701 ウバメガシ-トベラ群落 ----- 95
- 61702 マサキ-トベラ群落 ----- 97

61703	オニヤブソテツ-ハマビワ群集	99
61800	アカマツ群落	101
61900	クロマツ群落	103
63200	リュウキュウマツ群落	105

VII. ヤブツバキクラス域代償植生 ----- 107

70100	コナラ群落	107
70104	コナラ-フリ群落	109
70200	シイ・カシ萌芽林	111
70300	伐跡群落	113
70600	ススキ群団	115
71000	アカマツ群落	117
71001	ヤマツツジ-アカマツ群集	119
71003	モリツツジ-アカマツ群集	121
71004	コバノミツバツツジ-アカマツ群集	123
71100	クロマツ群落	125

VIII. 河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生(各クラス域共通) ---- 127

80300	ヨシフラス	127
-------	-------	-----

IX. 植林地, 耕作地植生(各クラス域共通) ----- 129

90100	常緑針葉樹植林	129
90101	アカマツ植林	131
90102	クロマツ植林	133
90103	スギ・ヒノキ・サウラ植林	135
90105	トドマツ植林	137
90200	落葉針葉樹植林	139
90800	常緑果樹園	141
91300	畑地雑草群落	143
91500	牧草地	145
91600	水田雑草群落	147

〈相観〉常緑広葉樹の低木林と落葉広葉樹の低木林。樹高1m前後でハイマツがカーペット状の群落を形成していることが多い。樹高により1層または2層構造となっている。

〈生育地〉高山帯、寒帯の安定地を中心に広く分布している。風衝地、稜線部、露岩地などの積雪量の少ない立地には高山低木群落を代表するハイマツ優占群落や、多雪地帯に多いナシマザサ、ハクサンシヤクナゲ優占群落が発達している。また風下斜面や谷筋などの積雪量の多い立地にはミヤマハンノキ優占群落が発達している。この地、蛇紋岩地や火山地帯の稜線部や湿原周辺の湿性立地にはかなり低標高のりみられる。

〈種組成〉常緑針葉樹のハイマツが広く優占している。日本海側の多雪地帯ではハイマツにかわり、ナシマザサやハクサンシヤクナゲが優占している。谷筋、風下斜面などには、落葉広葉樹が優占し、ミヤマハンノキ、タケカンバが広く生育するほか、北海道ではウラジロダケカンバ、新潟県以北ではヤハズハンノキなどが見られる。これらの低木に交って、ミネヤナギ、ミヤマナラ、ミネザクラ、ハナヒリノキ、オオバスノキ、ウラジロヨウラク、サラサドウダン、などの落葉低木や、アカミノウツギ、ガンコウラン、キバナシヤクナゲなどの常緑低木が生育している。下層にはコケモモが普遍的に生育し、その他ウラシマツツジ、ツルツギ、アカモノなどの常緑矮性低木や、ミツバオウレン、コガネイチゴ、ゴゼンタチバナなどの小型植物が生育している。植物社会学的には、コケモモ、ハイマツを標徴種とするコケモモ-ハイマツ群集(ハイマツ-コケモモ群集)が主体となっている。

〈群落の特徴〉高山帯に広く分布する低木林である。積雪の少ない風衝地などに常緑針葉樹のハイマツが優占し、積雪の多い谷筋などには、落葉広葉樹のミヤマハンノキなどが優占している。

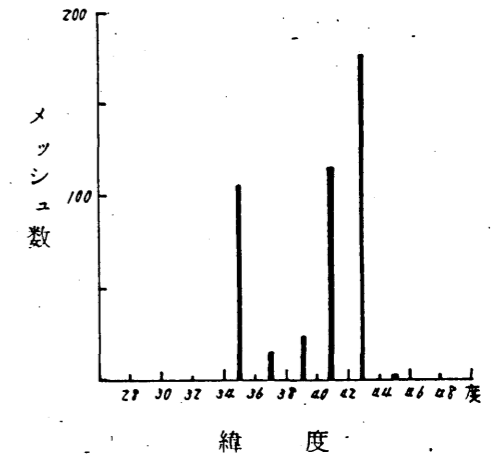
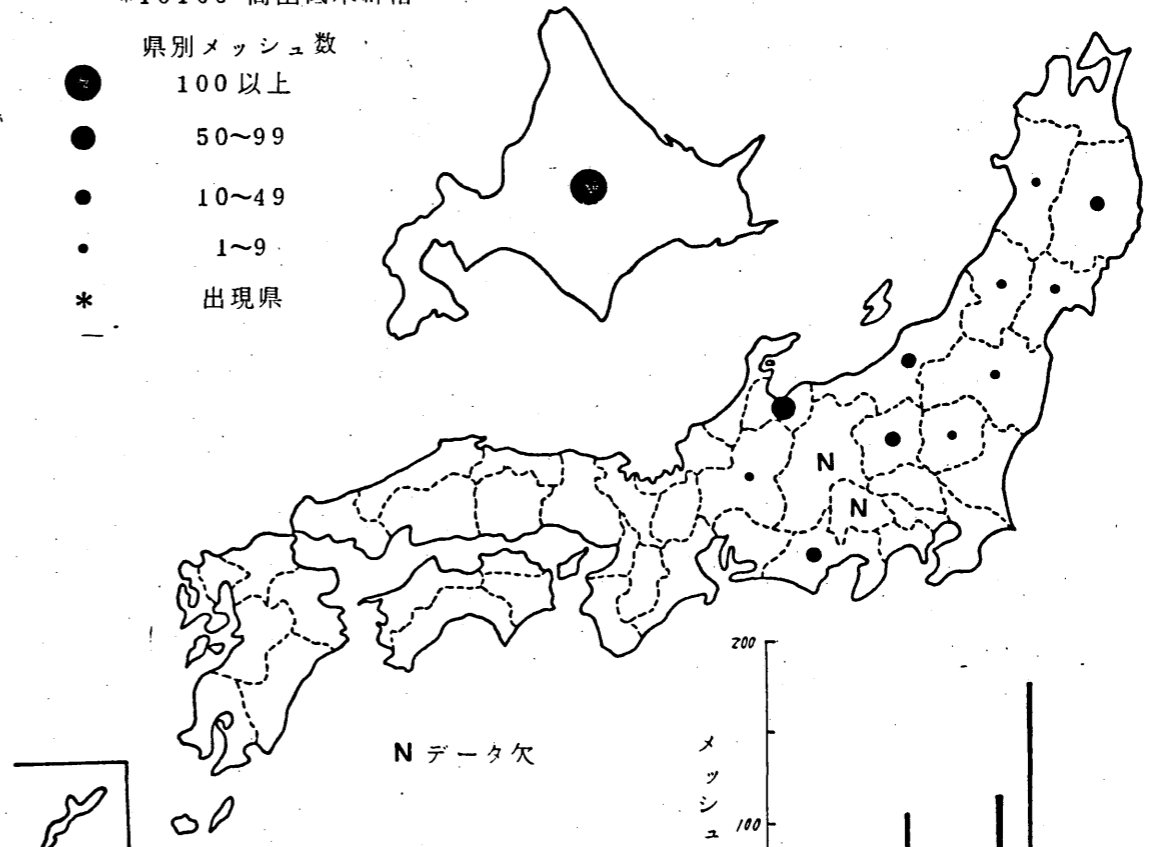
〈分布〉静岡県以北の高山帯、寒帯に分布している。高緯度になるほど低標高からあらわれ、静岡県では標高2700m以上、北海道では1000m以上にみられる。

〈その他〉一度破壊されると復元が困難なため、登山者、無制限な立ち入りと規制することが望まれる。

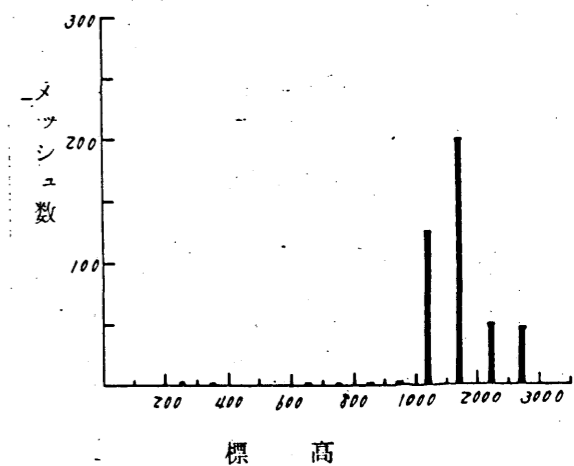
I. 寒帯、高山帯自然植生  
\*10100 高山低木群落

県別メッシュ数

- 100以上
- 50~99
- 10~49
- 1~9
- \* 出現県

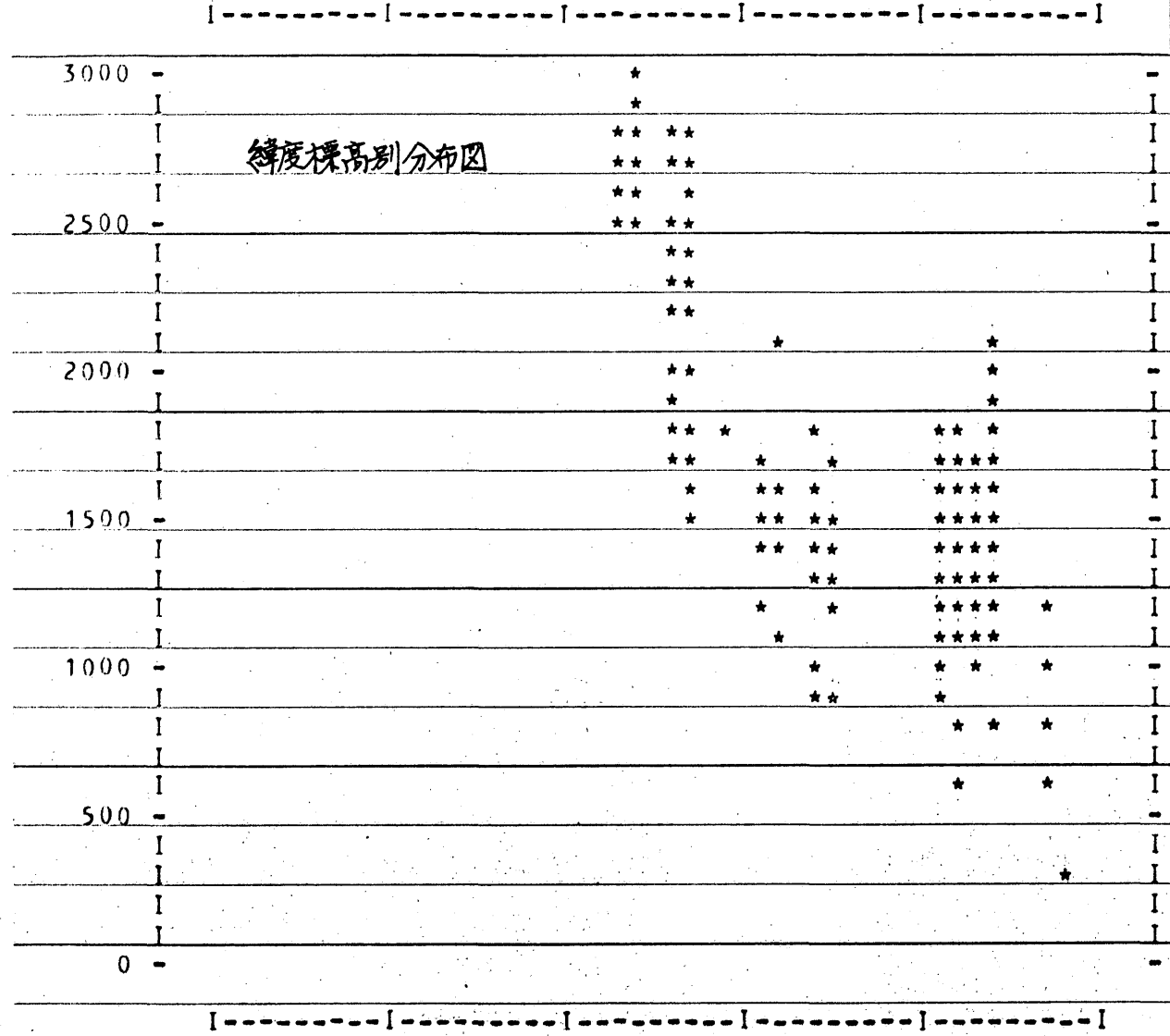


コード	群落名	メッシュ数	出現県
10100A	高山低木群落	171	北海道, 岩手, 宮城, 秋田, 山形, 福島, 群馬, 新潟, 岐阜, 静岡
10101B	コケモモ-ハイマツ群集	265	北海道, 富山
10101C	ハイマツ-コケモモ群集	3	栃木*
10102D	ミネヤナギ群落	1	栃木
	計	440	

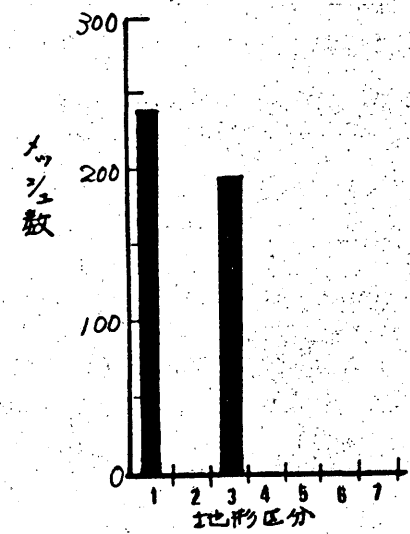


\*1県で2群落以上出現する場合、メッシュ数のもとより各群落

(ヒヨクウ) 高山依木群落 (\*10100)

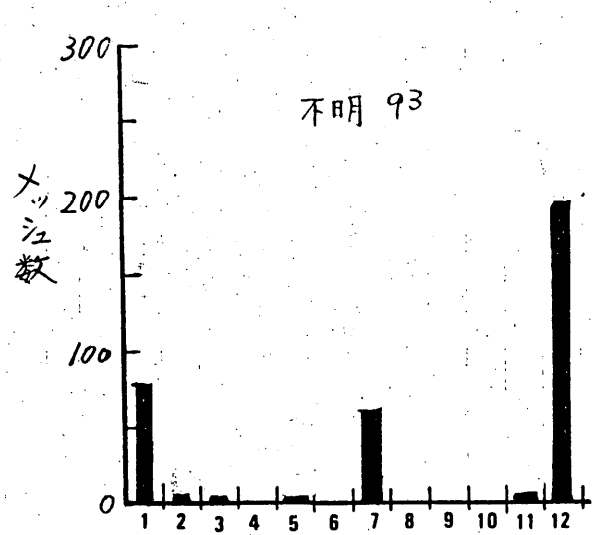


26 30 34 38 42 46 (1°)



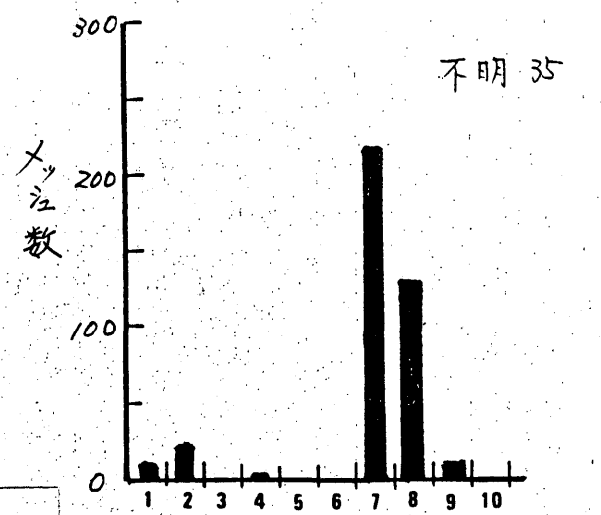
地形区別頻度図

- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、緩丘
- 6 低地
- 7 河川、砂洲



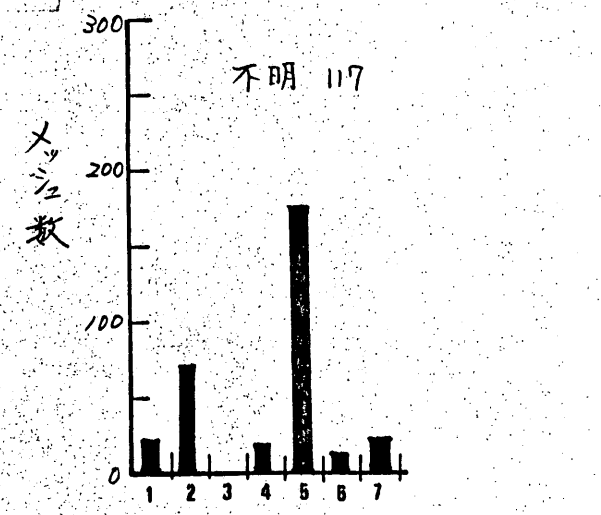
土壌区別頻度図

- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホトソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他



地質(岩石)区別頻度図

- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩、凝灰岩、流紋岩)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの



地質(時代)区別頻度図

- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

高山ハイデ及び風衝草原 Alpine heathland and wind-exposed grassland

<相観> 常緑広葉樹性低木群落のカーペット状にひろがる(高山ハイデ)。また落葉広葉樹性低木と多年生草本を主とする群落の斑状・縞状に低地被帯で分布する(風衝草原)。群落高は2~3cmから数10cmである。

<生育地> 高山帯の風当たりが強く積雪の少ない稜線部や山頂部で、改原・岩原または構造工に因りて生育している。高山ハイデは半安定地に、風衝草原は不安定地に発達している。これらの立地は冬季強風と低温にさらされ、夏季も強風にさらされ、年回を通じて厳しい乾性立地となっている。多孔質噴出物の分布する火山地帯では高山帯より低標高でも同様の群落が見られる。

<種組成> 高山ハイデはミネズオウ、ガンコウランなどが優占し、その他、コメバツカサクラ、フラシマツツジ、イフウメ、イフフシ、チシマツカサクラなどのツツジ科の常緑樹性低木によって構成される。ムシゴケ、ハナゴケなどの地衣類もよくみられる。この群落はコメバツカサクラ、ミネズオウ、フラシマツツジを主な特徴種、区分別種として、コメバツカサクラ-ミネズオウ群落にまとめられる。風衝草原はタカネスミレ、コマクサ、オヤマノエンドウ、チシマギョウウ、ミヤマタイコンソウ、ハクサンフウロ、シラネニンジン、ミヤマキンバイ、ムカゴトランオ、ハクサンイケゲなど、美しい花を咲かせる多年生草本植物が立地の差違に対応して種組成を変え配列している。この風衝草原はコマクサ-イフフメクサクラス、オヤマノエンドウ-ヒゲハリスゲ群落など多くのクラス、群落に細分されている。

<群落の特徴> 高山帯のたえず強風の影響を受ける厳しい乾性立地に分布する群落である。やや安定した礫原にはミネズオウ、ガンコウランなどのツツジ科の常緑広葉樹性低木によって構成される高山ハイデが発達し、さらに風衝が強く砂礫の移動の激しい不安定地

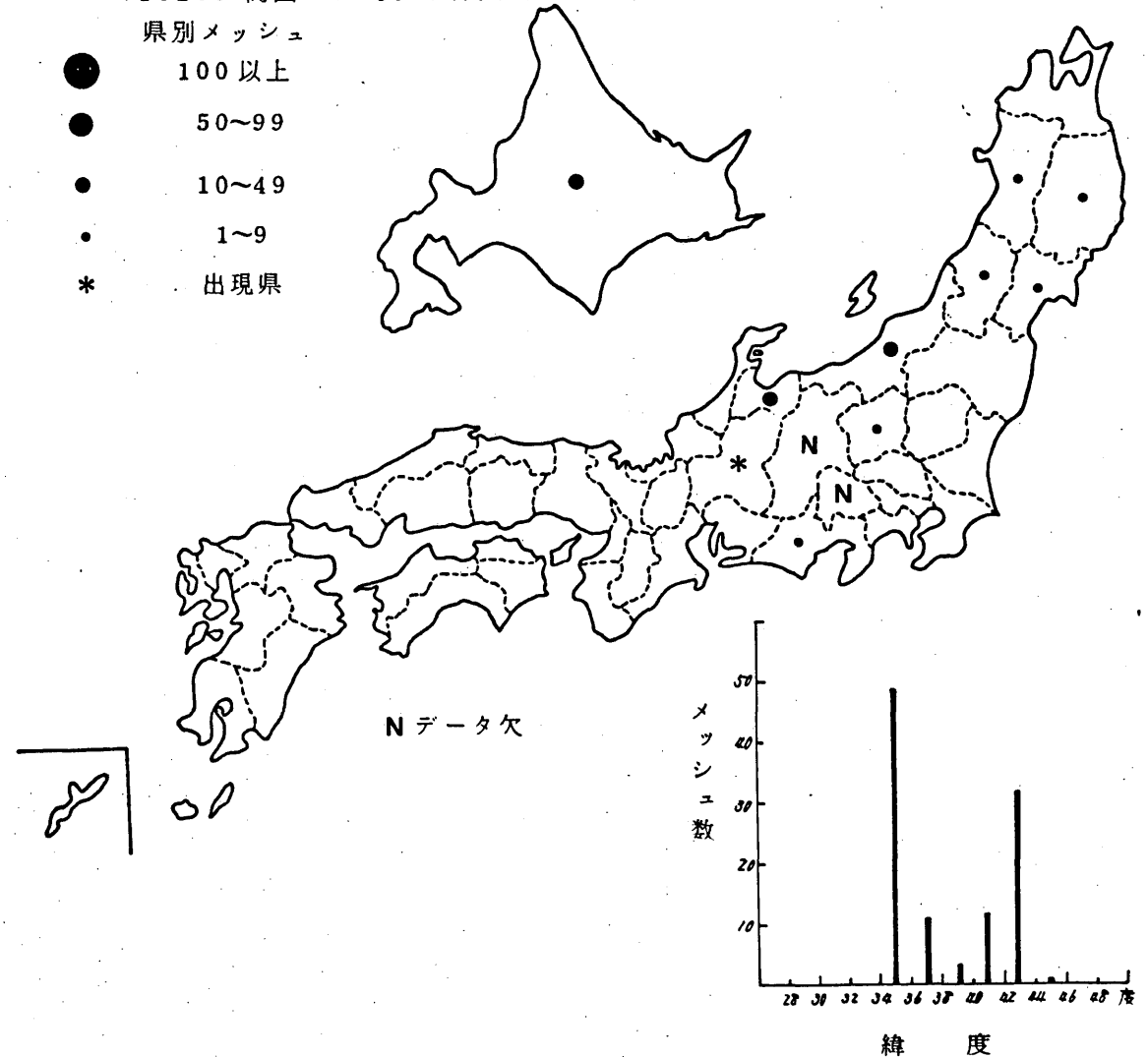
には、耐乾性の強い各種の多年生草本植物の生育する風衝草原が形成され、美しいお花畑となっている。

<その他> 踏圧などの攪乱に対して弱い群落なので、稜線の登山道整備や立入禁止区域の設定が必要である。

\*10200 高山ハイデ及び風衝草原

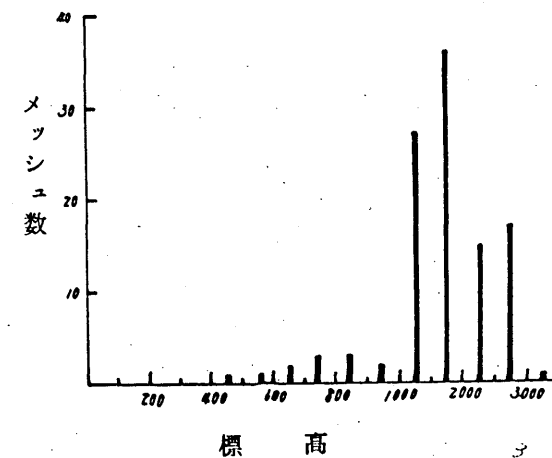
県別メッシュ

- 100以上
- 50~99
- 10~49
- 1~9
- \* 出現県



コード	群落名	メッシュ数	出現県
10200A	高山ハイデ及び風衝草原	59	北海道, 岩手, 宮城, 秋田, 群馬, 新潟, 岐阜
10201B	コメバツカサクラ-ミネズオウ群落	23	北海道, 秋田, 富山, 静岡
10203C	コマクサ-イフフメクサクラス	25	北海道, 秋田, 富山, 静岡
10200D	エゾマヤマナギ-エゾオヤマノエンドウ群落	1	北海道
10202E	オヤマノエンドウ-ヒゲハリスゲ群落	0	富山, 静岡
10205F	イフフメクサ-ツツジ科群落	0	静岡
	計	108	

\*1県で2群落以上出現する場合、メッシュ数のもとより、群落

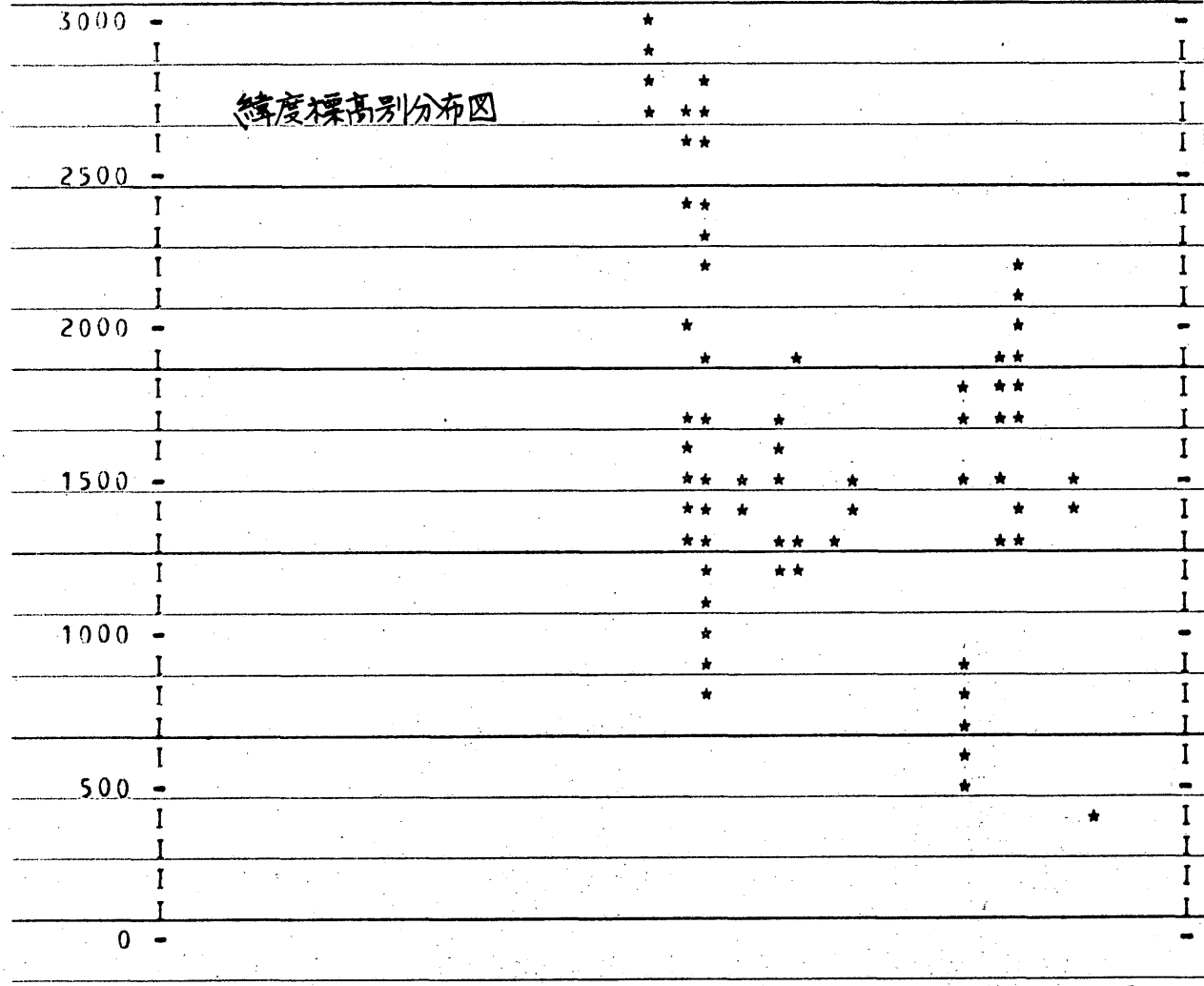


(七三〇三)

# 高山ノリテ及び風衝草原

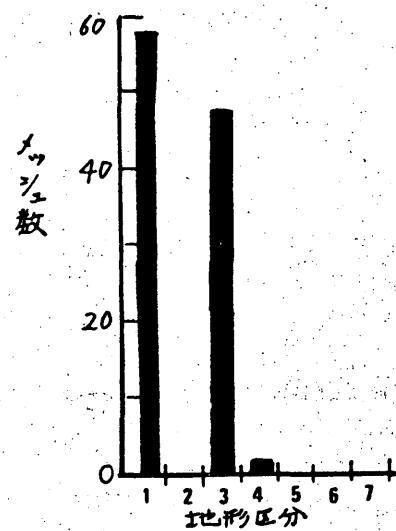
( \*10200 )

-----|-----|-----|-----|-----|



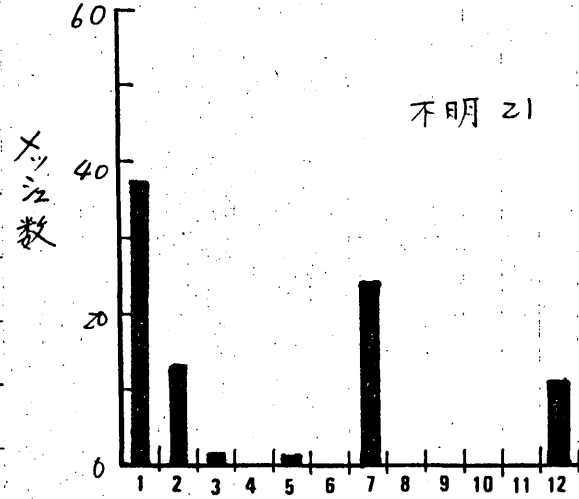
緯度標高別分布図

26 30 34 38 42 46 (1°)



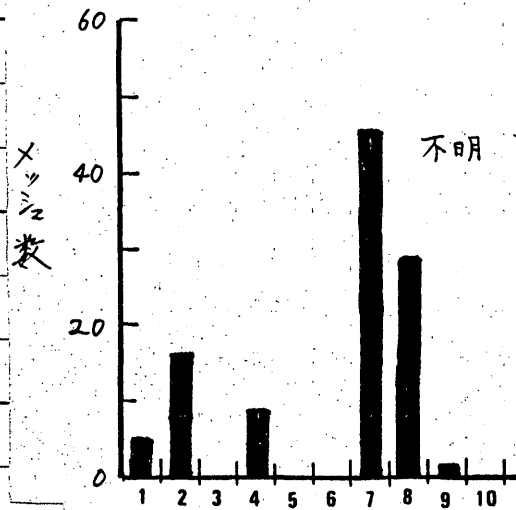
地形区分別頻度図

- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、残丘
- 6 低地
- 7 河川、砂洲



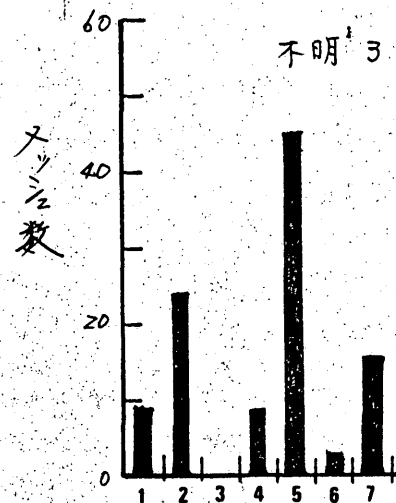
土壌区分別頻度図

- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他



地質(岩石)区分別頻度図

- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩、凝灰岩、流紋岩、安山岩、玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの



地質(時代)区分別頻度図

- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

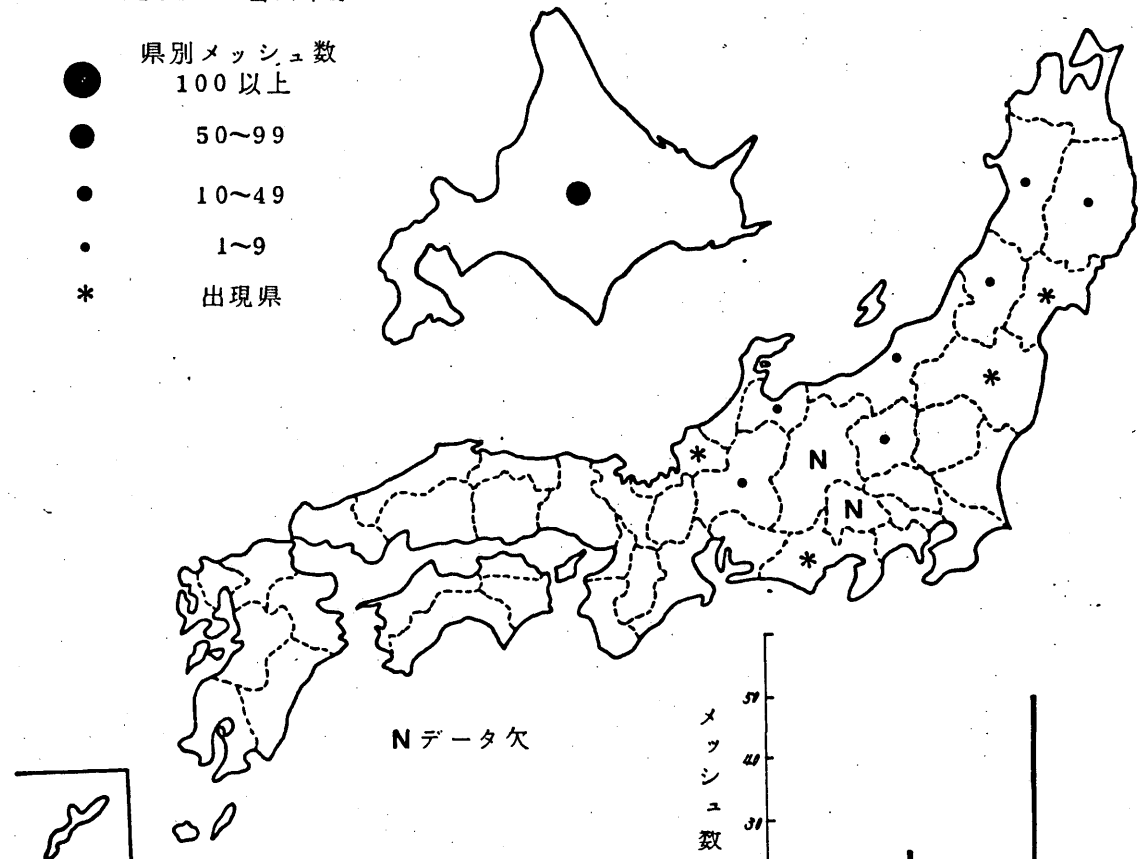
雪田草原

Snow patch community

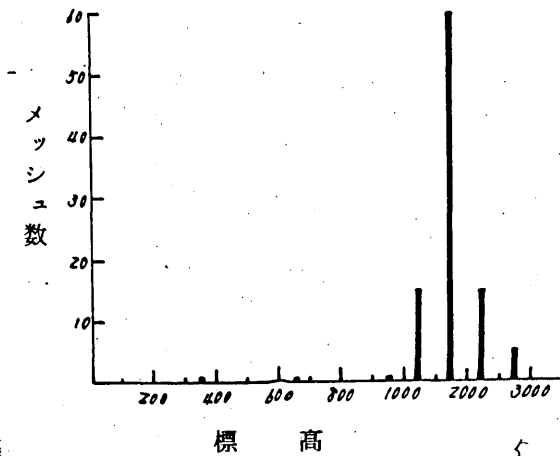
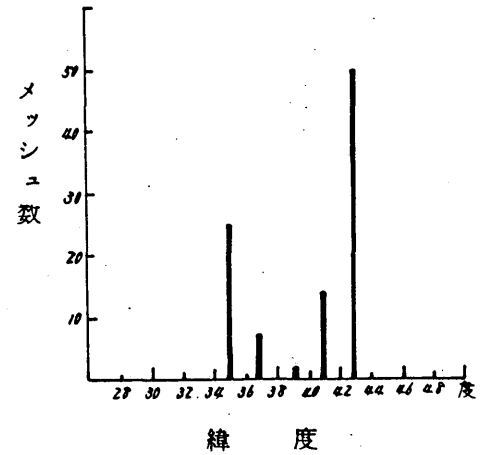
<相観>常緑性低木と落葉小型草本植物から成る低草草原、および落葉大型草本植物から成る高草草原。  
 <生育地>日本海側多雪地帯を中心とする高山帯において、冬季季節風の風背斜面、雪蝕凹谷や二重山稜の間の凹状地、湿原周辺の平坦地など、積雪量が多く融雪の遅いところにみられる。立地は湿性であるが、融雪後乾性になるところと湿性になるところがある。雪田底部、砂礫地や雪田上部の急傾斜岩礫地では乾性化するのに対し、同様の融雪水が流下する緩傾斜または平坦なところは周年湿性となり、黒泥エや泥炭が形成されている。  
 <種組成>融雪後乾性化するところには常緑性低木のアオノツカサクラが常在度で生育し、チングルマ、ジムカデ、ミネスオウなどとともにカーペット状にひろがり、上層にはハクサンイチゲ、シヤマクロステ、ヒトノカリヤス、タカネヤハスハハコ、コカネキク、ウサギキクなどが生育している。融雪後も通潤なところではエゾコサクラ、ヒナサクラ、ハクサンコサクラなどのツクラソウ属植物やショウジョウステが特徴とする草原が形成される。周年湿性な立地にはショウジョウステ、イワイケヨウ、イワショウブ、ショウジョウバカマ、コバイケイソウなどの生育する高草の草原が形成され、さらに過湿地においてはヌマガヤ、イワイケヨウが優占するようになる。雪田の深畔やごく浅い湿地など過湿地にはシヤマイが優占している。これらの雪田草原は、地域、立地の差によって種組成の異なる多くの群落を一括したものである。  
 <群落の特徴>高山帯の風背斜面や凹状地など、多量の積雪があり融雪の遅いところにみられる草原である。いわゆる湿性のお花畑であり、夏季には美しい花で彩られる。

\*10300 雪田草原

- 100以上
- 50~99
- 10~49
- 1~9
- \* 出現県

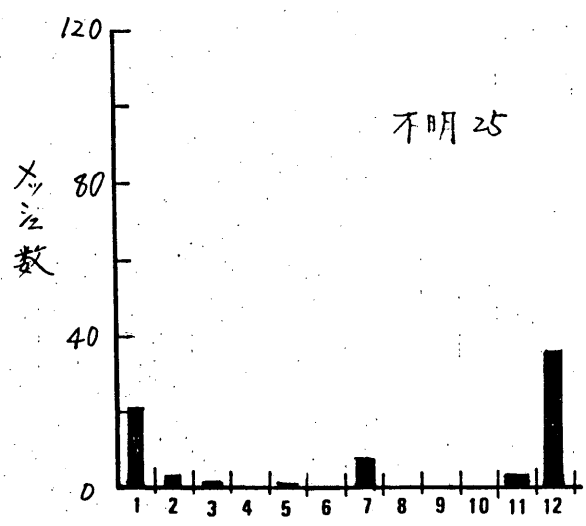
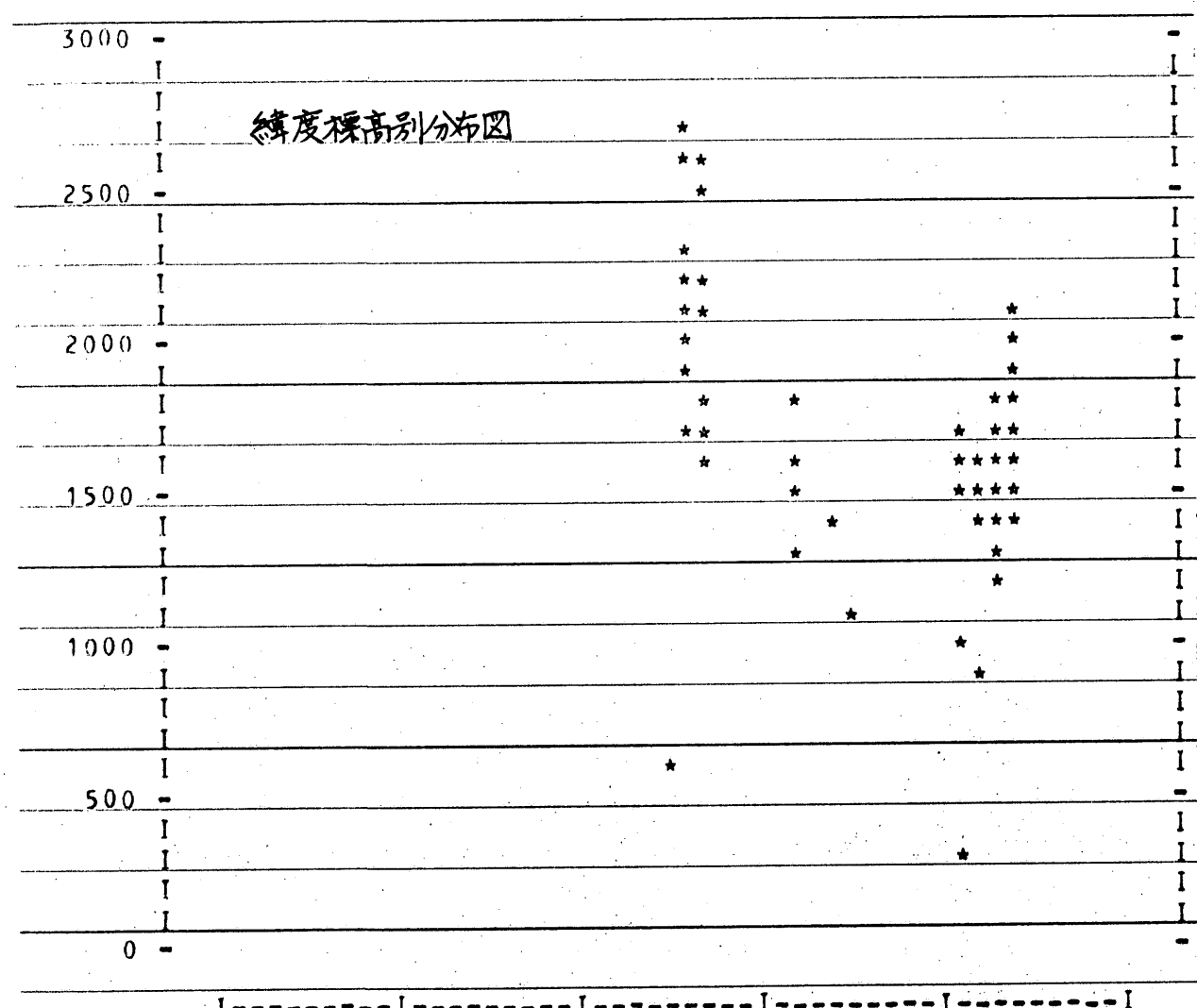


コード	群落名	メッシュ数	出現県
103000	雪田草原	89	北海道* 岩手、宮城、秋田、山形、福島、群馬、新潟、福井、岐阜、静岡
10300A	シヤマクロステ・チシクモサクラ群落	0	北海道
10300B	エゾツカサクラ・チングルマ群落	1	北海道
10300C	シヤマイ・ハクサンオウ群落	1	北海道
10300D	トウチフクロ虫群落	0	北海道
10300E	エゾコサクラ群落	0	北海道
10300F	アオノツカサクラ群落	0	北海道
10300G	シヤマキボウケ群落	0	北海道
10300H	ハクサンコサクラ群落	0	北海道
10300I	タカネヤハスハハコ・アオノツカサクラ群落	7	富山*
10300J	シヤマイ群落	0	富山
10300K	ショウジョウステ・イワイケヨウ群落	2	富山
	計	100	

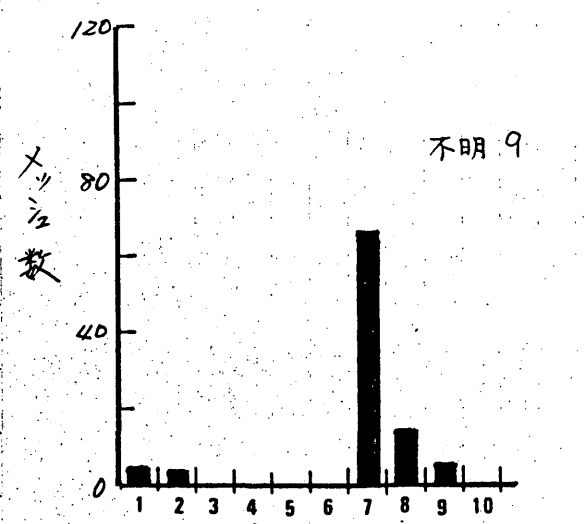


\*1県で2群落以上に出現する場合、メッシュ数のもととして1群落

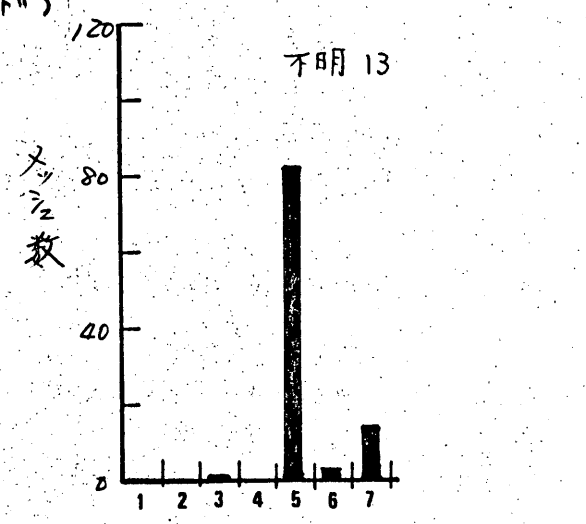




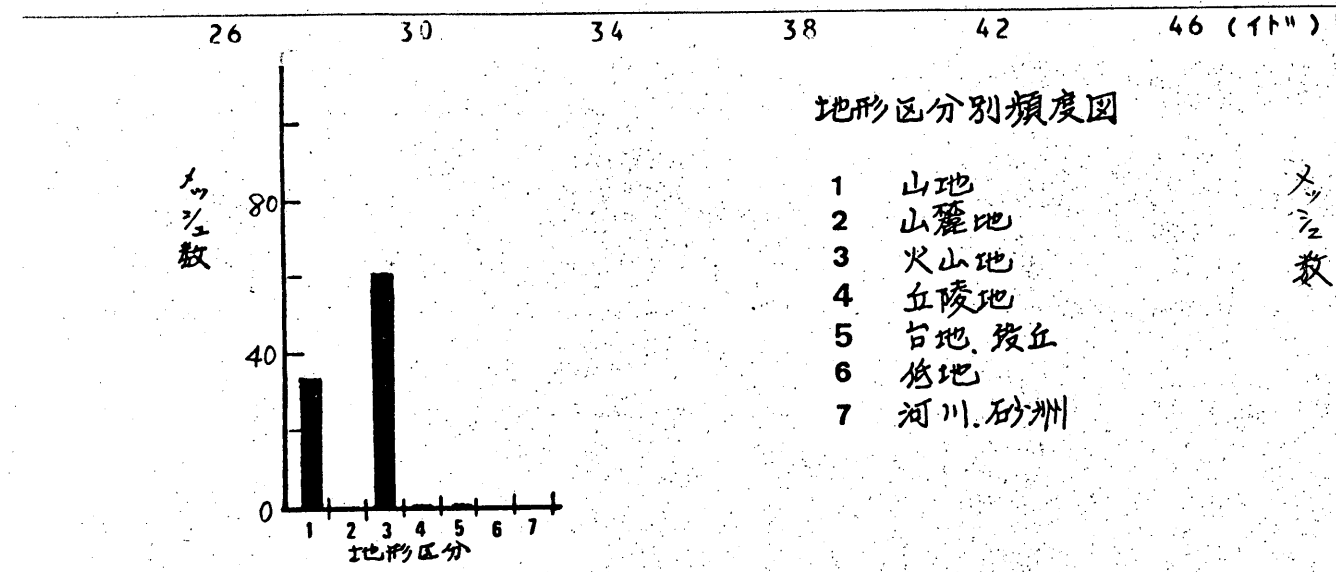
- 土壌区分別頻度図
- 1 岩屑土
  - 2 未熟土
  - 3 黒ボク土
  - 4 乾性褐色森林土
  - 5 褐色森林土
  - 6 湿性褐色森林土
  - 7 ポドソル
  - 8 赤黄色土
  - 9 低地土
  - 10 グライ土
  - 11 泥炭土
  - 12 その他



- 地質(岩石)区分別頻度図
- 1 未固結堆積物
  - 2 固結堆積物
  - 3 石灰岩
  - 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
  - 5 シラス
  - 6 ローム
  - 7 火山性岩石 (集塊岩、凝灰岩、流紋岩、安山岩、玄武岩等)
  - 8 深成岩
  - 9 変成岩
  - 10 表示のないもの



- 地質(時代)区分別頻度図
- 1 古生代
  - 2 中生代
  - 3 古第三紀
  - 4 新第三紀
  - 5 洪積世
  - 6 沖積世
  - 7 その他



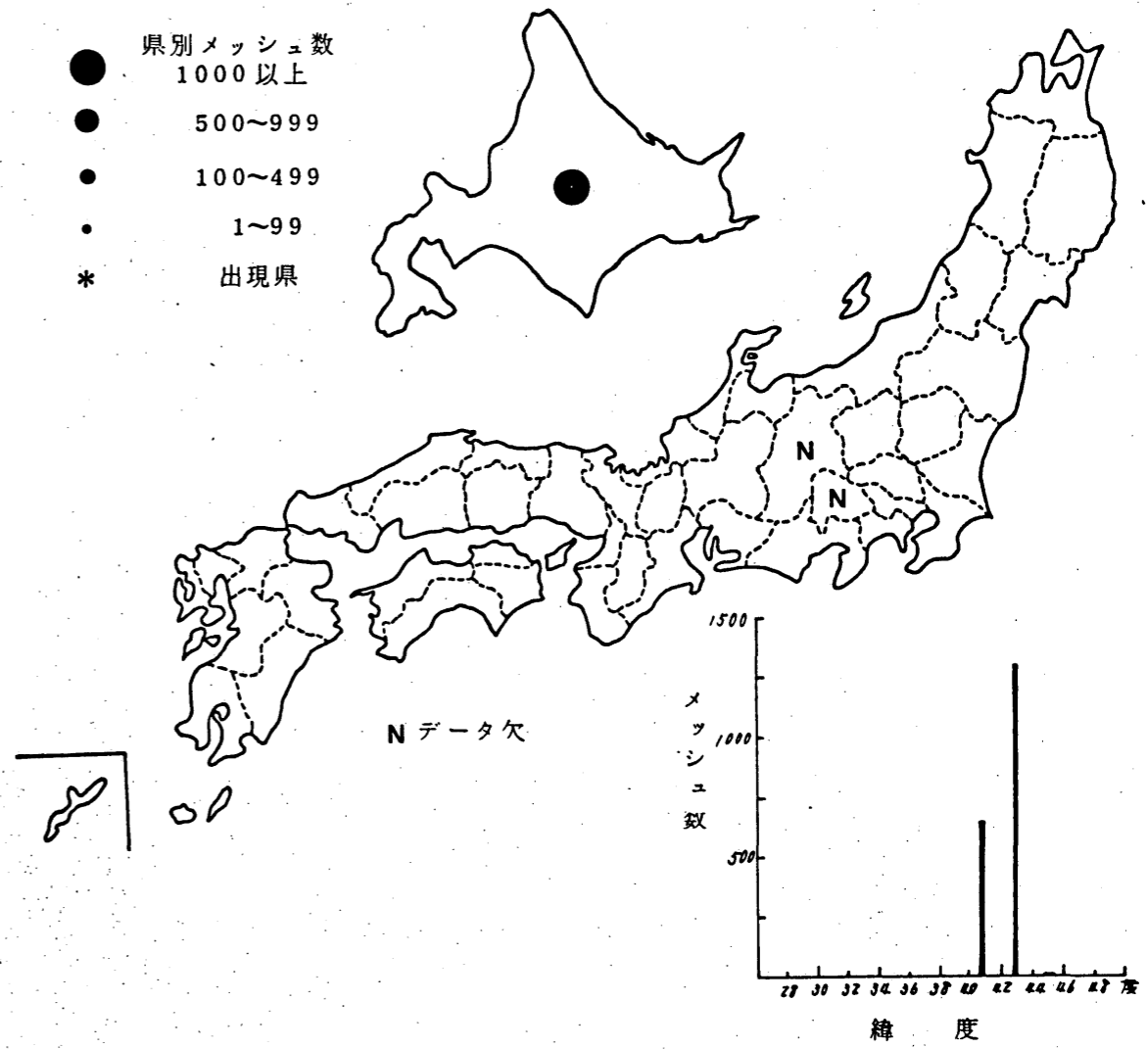
- 地形区分別頻度図
- 1 山地
  - 2 山麓地
  - 3 火山地
  - 4 丘陵地
  - 5 台地、残丘
  - 6 低地
  - 7 河川、砂州

エゾマツ-トドマツ群集 *Picea jezoensis*-*Abies sachalinensis* association

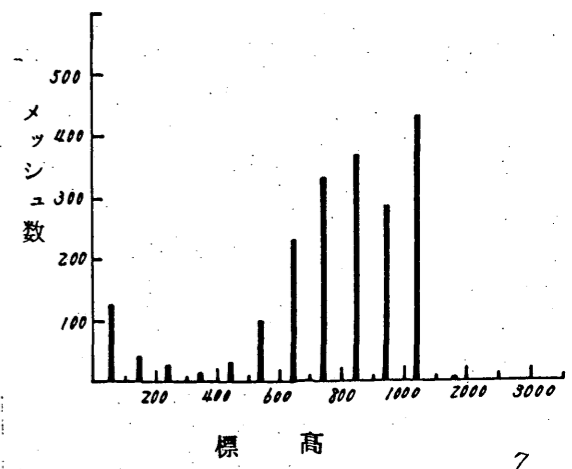
〈相観〉常緑針葉樹の高木林 亜高木林。3〜4層構造。  
 〈生育地〉北海道の夏季冷涼多湿気候条件にある亜高山帯に広く分布する。盆地または谷頭の平坦地のような適潤で富養な立地を好む。多雪地には分布しない。  
 〈種組成〉高木層は構成比によってエゾマツ優占、トドマツ優占、および両者混生の3タイプがある。亜高木層はエゾマツ、トドマツなど常緑針葉樹雑樹と、マケカンバ、オカラバナ、ミネカエデなどの落葉広葉樹によって構成される。林床は低木層にケシマササ、フマイササ、エゾミヤコササなどの優占するササ型、シロバナシマクサゲ、コヨウラクワツジ、フロウスゴ、ハイシキミ、エゾユズリハなどの優占する低木型、草本層にオシダ、シラネフタバなどの優占するシタ型、ゴンゲンスゲなどの優占するスゲ型、コケ層の発達したコケ型など、数タイプが認められる。これらの種群の地に、低木層にはエゾイソフツジ、ハチヒリノキ、オオバスノキ、ミヤマノソウ、ムラサキヤシオなどのフツジ科植物が普遍的にみられ、草本層にはマイヅルソウ、ヒメマイヅルソウ、ウサギシマ、ミヤマコナツメ、エゾノヨフバムグラ、コイタヨウランなどが高帯に度々生育している。  
 〈群落の特徴〉常緑針葉樹のエゾマツ、トドマツの優占する高木林または亜高木林である。北海道の山岳を代表する原生林である。  
 〈分布〉北海道亜高山帯の山岳地に広く分布する。根室半島、天塩川河口、札幌など低地にもみられる。日本海側の山岳地には分布しない。  
 〈その他〉近年急激に伐採が進んでいるため、自然生態系に則った形で保全することが必要である。

II. 亜寒帯、亜高山帯自然植生  
 \*20100 エゾマツ-トドマツ群集

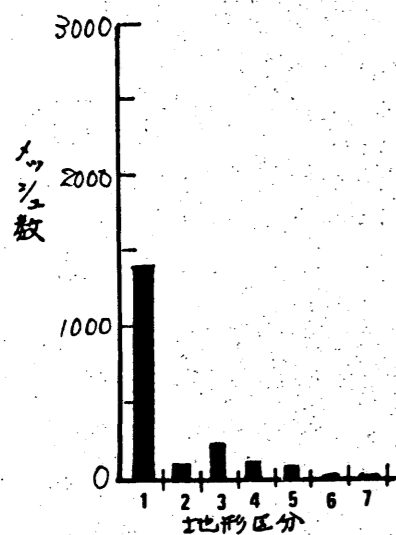
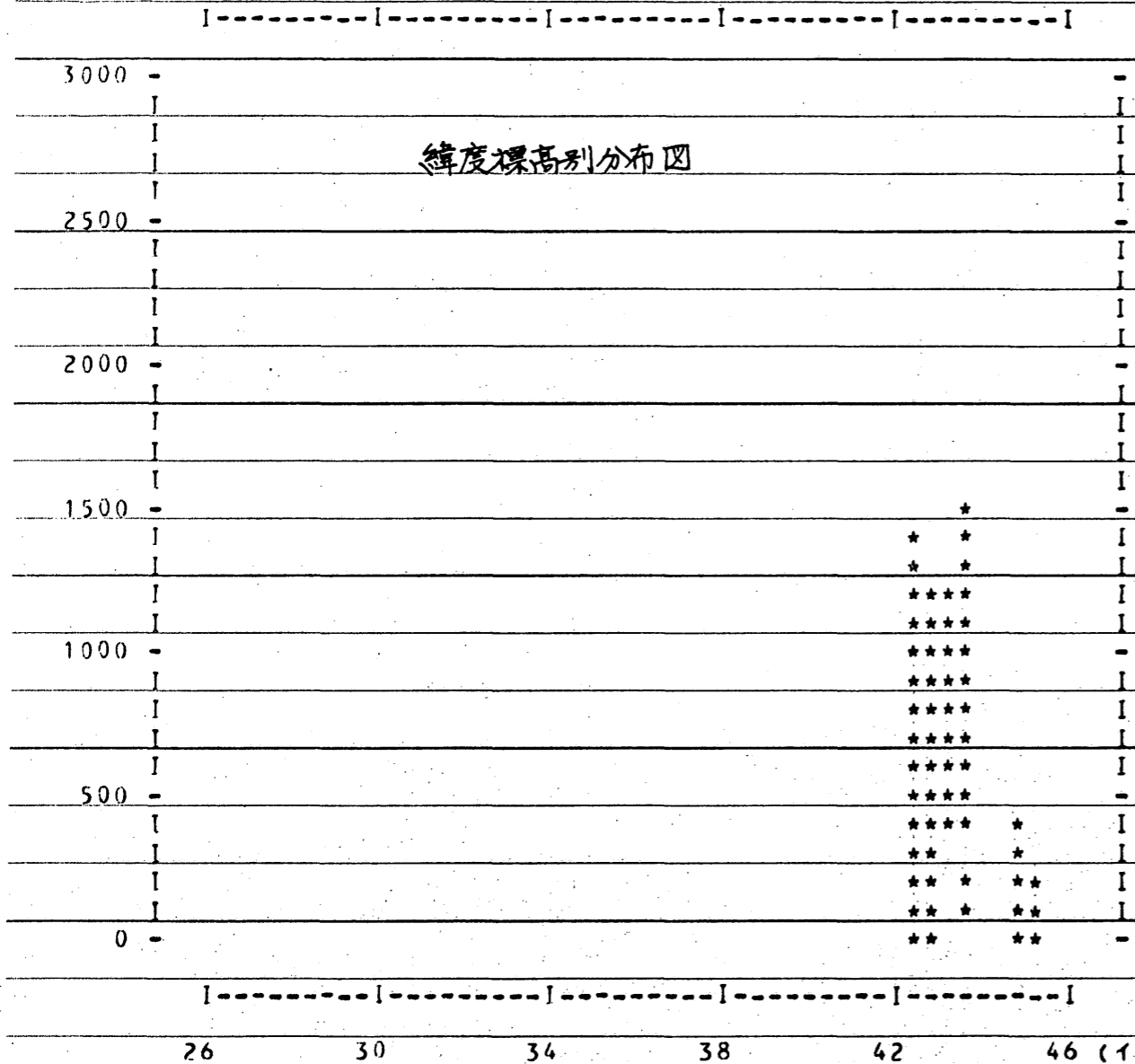
- 県別メッシュ数 1000以上
- 500~999
- 100~499
- 1~99
- \* 出現県



コード	群落名	メッシュ数	出現県
20100	エゾマツ-トドマツ群集	1983	北海道
	計	1983	

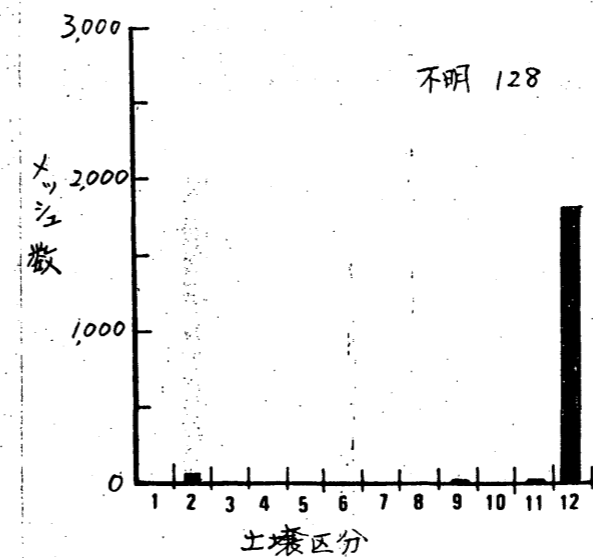


緯度標高別分布図



地形区分別頻度図

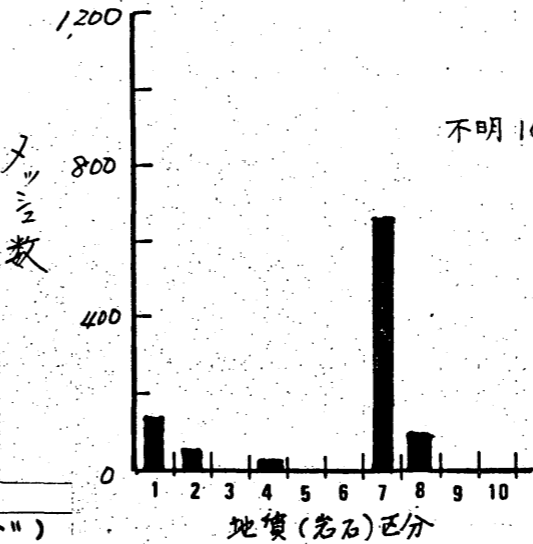
- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、残丘
- 6 低地
- 7 河川、砂州



土壌区分別頻度図

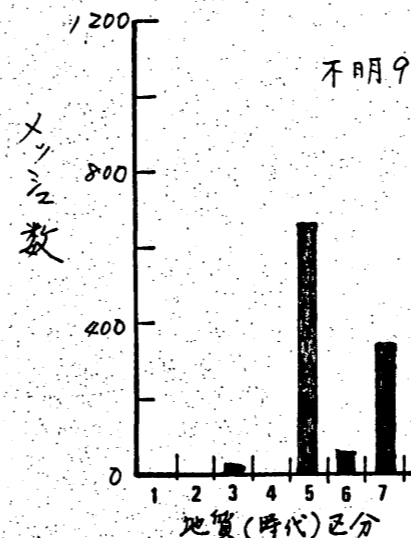
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

(凡例改訂が行われ  
たところ、北海道の  
4, 5, 6 を含むと  
考えられる。)



地質(岩石)区分別頻度図

- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩、凝灰岩、流紋岩、安山岩、玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの



地質(時代)区分別頻度図

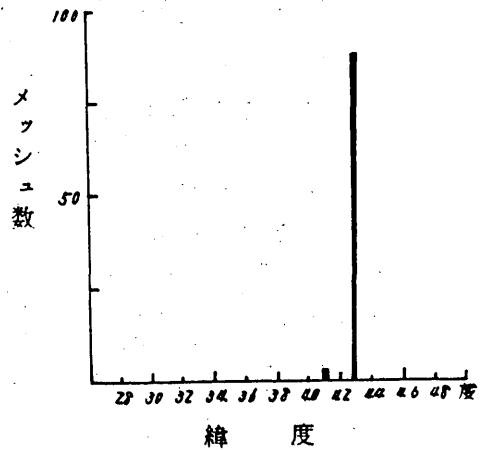
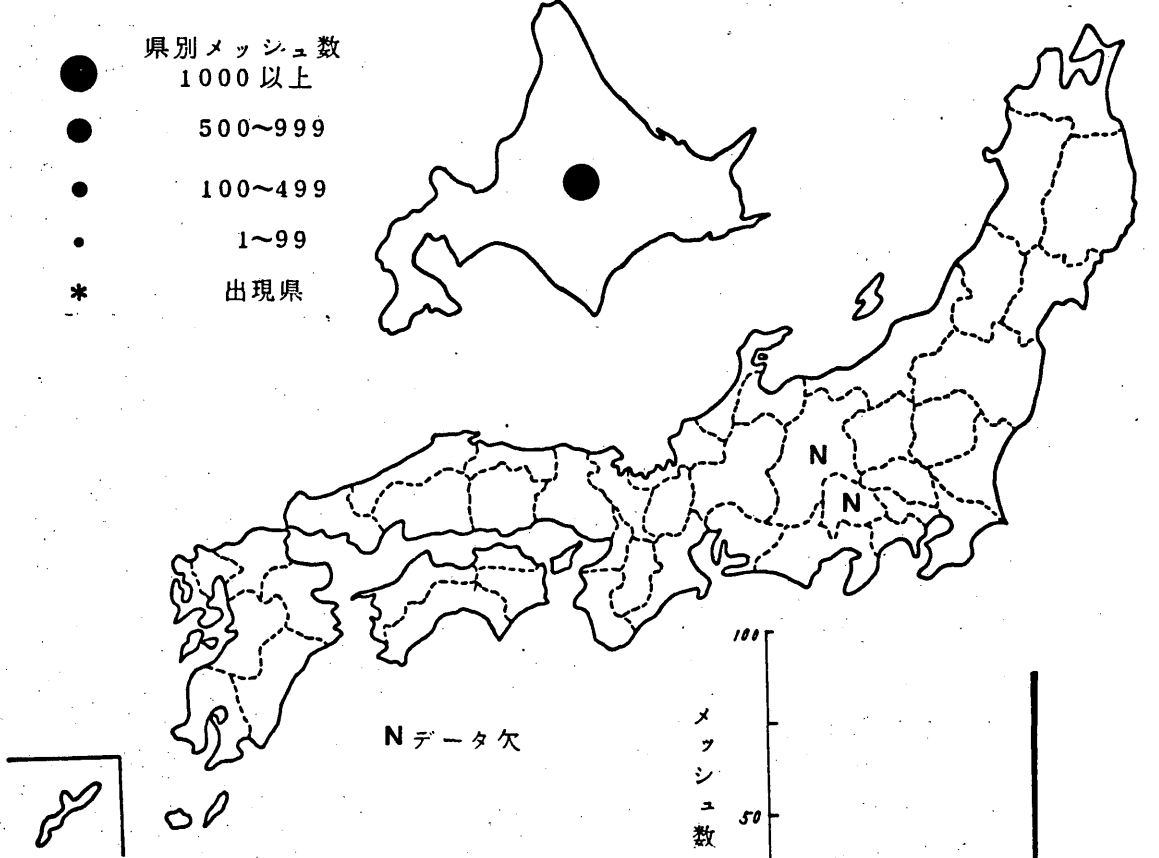
- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

エゾマツ-ダケカンバ群落 *Picea jezoensis*-*Betula ermanii* community

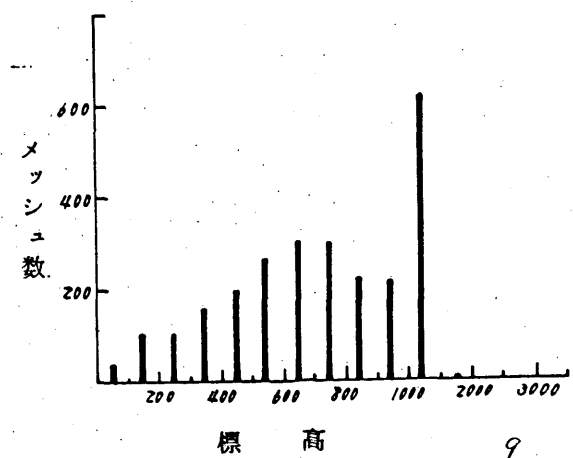
<相観> 常緑針葉樹と落葉広葉樹の混生する高木林。  
 <生育地> 亜高山帯の下部針葉樹林帯と上部ダケカンバ林帯の移行部に分布する。  
 <種組成> エゾマツ-トドマツ群落 要素とダケカンバ林 (ササ-ダケカンバ群落, ミヤマハンノキ-ダケカンバ群落) 要素とから構成される。エゾマツ, トドマツの混生率によれば, ダケカンバ林冠下に好陽性植物が, エゾマツ, トドマツの林冠下に耐陰性植物が集中し, 林床がモザイク状となる。シカレチシマガサが優占する場合が一般的である。  
 <群落の特徴> エゾマツ, トドマツなどの常緑針葉樹とダケカンバなどの落葉広葉樹の混生する亜高山針広混交林である。  
 <分布> 北海道の山地に広く分布している。

\*20400 エゾマツ-ダケカンバ群落

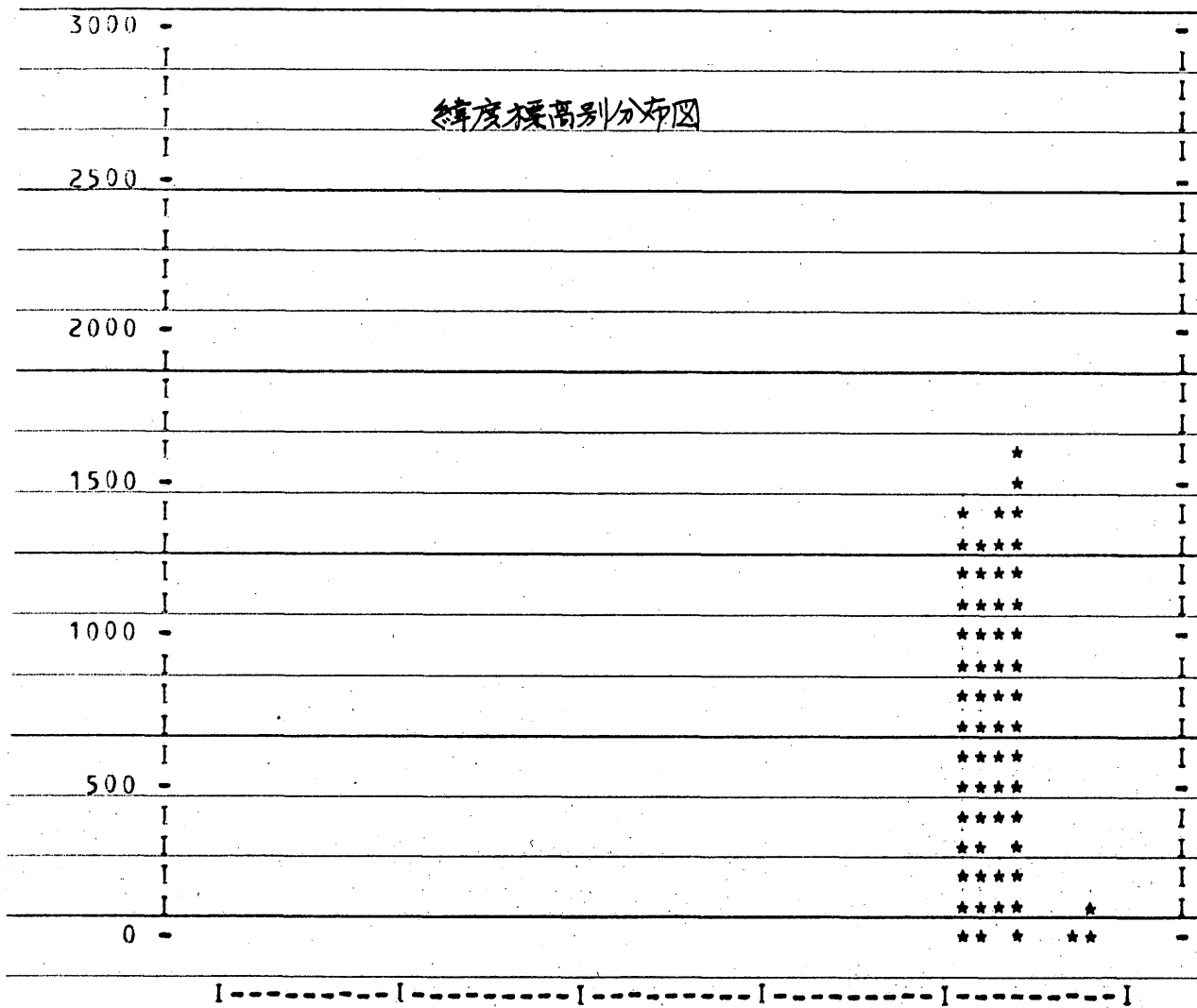
- 1000 以上
- 500~999
- 100~499
- 1~99
- \* 出現県



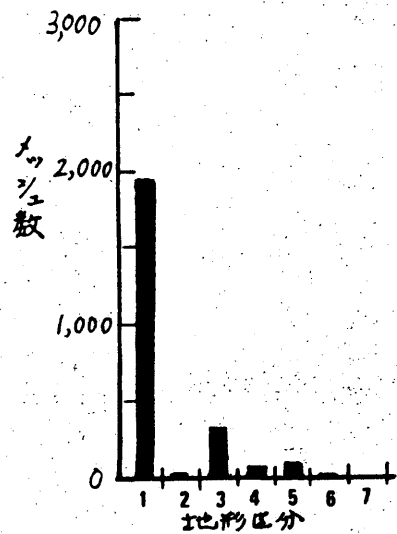
コード	群落名	メッシュ数	出現県
20400	エゾマツ-ダケカンバ群落	2554	北海道
	計	2554	



緯度標高別分布図

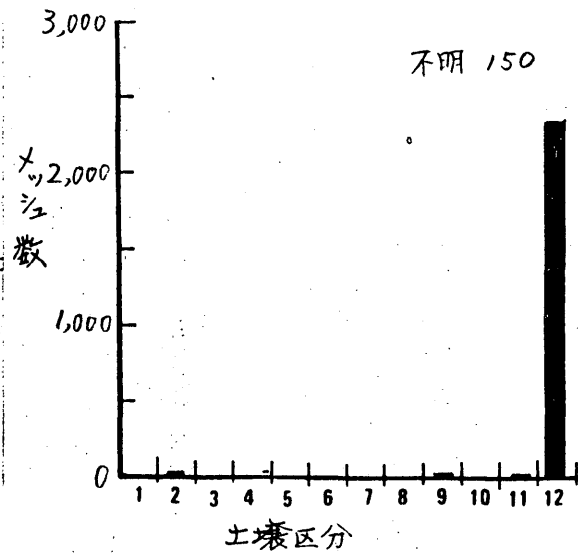


26 30 34 38 42 46 (1°)



地形区分別頻度図

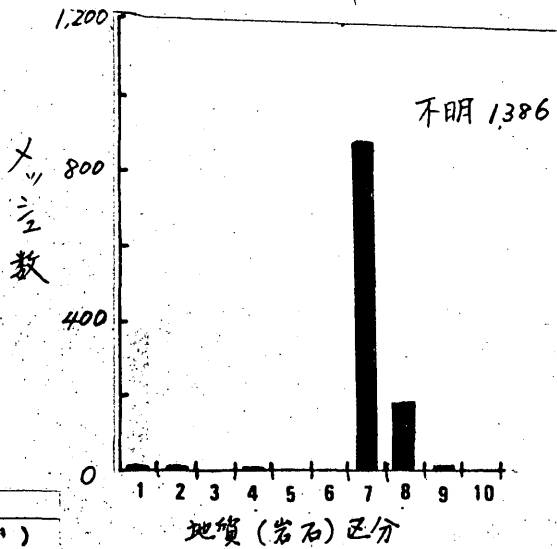
- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、残丘
- 6 低地
- 7 河川、砂洲



土壌区分別頻度図

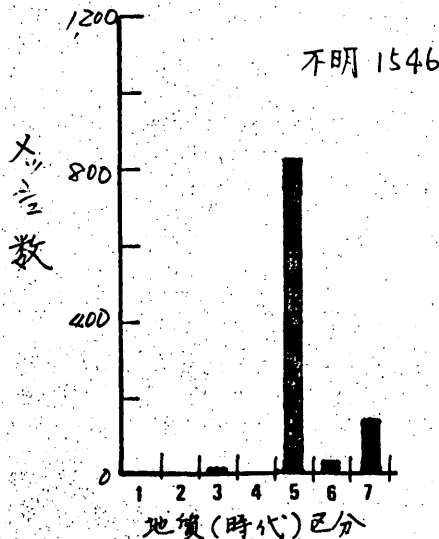
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

(凡例改訂が行われ  
たところ。北海道の  
4, 5, 6を合むと  
考えられる。)



地質(岩石)区分別頻度図

- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩、凝灰岩、流紋岩、安山岩、玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの



地質(時代)区分別頻度図

- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

〈相観〉常緑針葉樹の高木林、亜高木林。群落高は3〜20<sup>m</sup>とはばがあり、また疎林から密林までさまざまな段階のものが見られる。発達した群落では、コメ層が頭着で5層構造となっている。

〈生育地〉亜高山帯。日本海側多層地帯を中心に広く分布している。冬季季節風。風衝面によく発達し、特に勾配30°以下の緩斜面では密林となる。また亜高山帯上限附近や湿原の周辺では矮生状となっている。雪崩。発生しやすい風背面ではほとんど発達しない。

〈種組成〉高木層には、オオシラビソが優占し、東北から北関東にかけては、コメツガ、ヒノキ、マスナロ、トウヒなどの常緑針葉樹が混生することがある。また東北から北陸にかけての多雪地帯では、ダケカンバ、ナナカマド、サビバ、ナナカマド、オガラバナ、ミネカエデなどの落葉広葉樹がしばしば混生する。亜高木層には高木層の椎樹が生育している。低木層にはチシマザサが高常在度で見られ、オオカメノキ、コヨウラクツツジ、コシアブラ、オオバスノキなどの落葉広葉樹やハクサンシマクナゲなどの常緑広葉樹を混えてソッる。草本層にはヤマソテツ、シノブガクマ、ツルツゲ、アカミノイマツゲ、ショウジョウバカマなどの常緑植物やマイヅルソウ、コシヤマカタバミ、カニコウモリ、ゴゼンタチバナなどの落葉植物が生育している。またイワダレゴケなどコケ層も発達している。一般に林床が暗いため構成種数は少ない。種組成的にはオオシラビソ、トウヒを標徴種としてオオシラビソ群集にまとめられている。

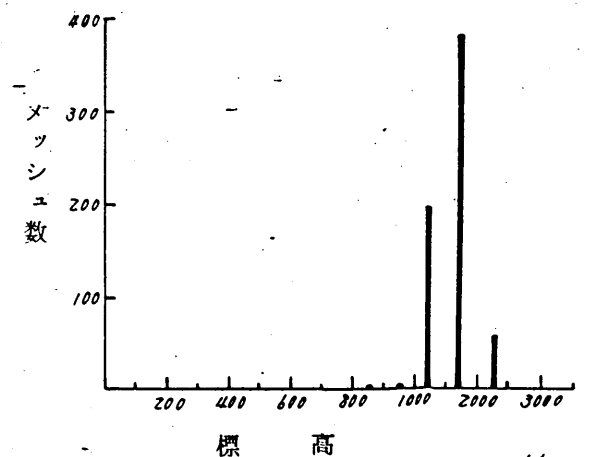
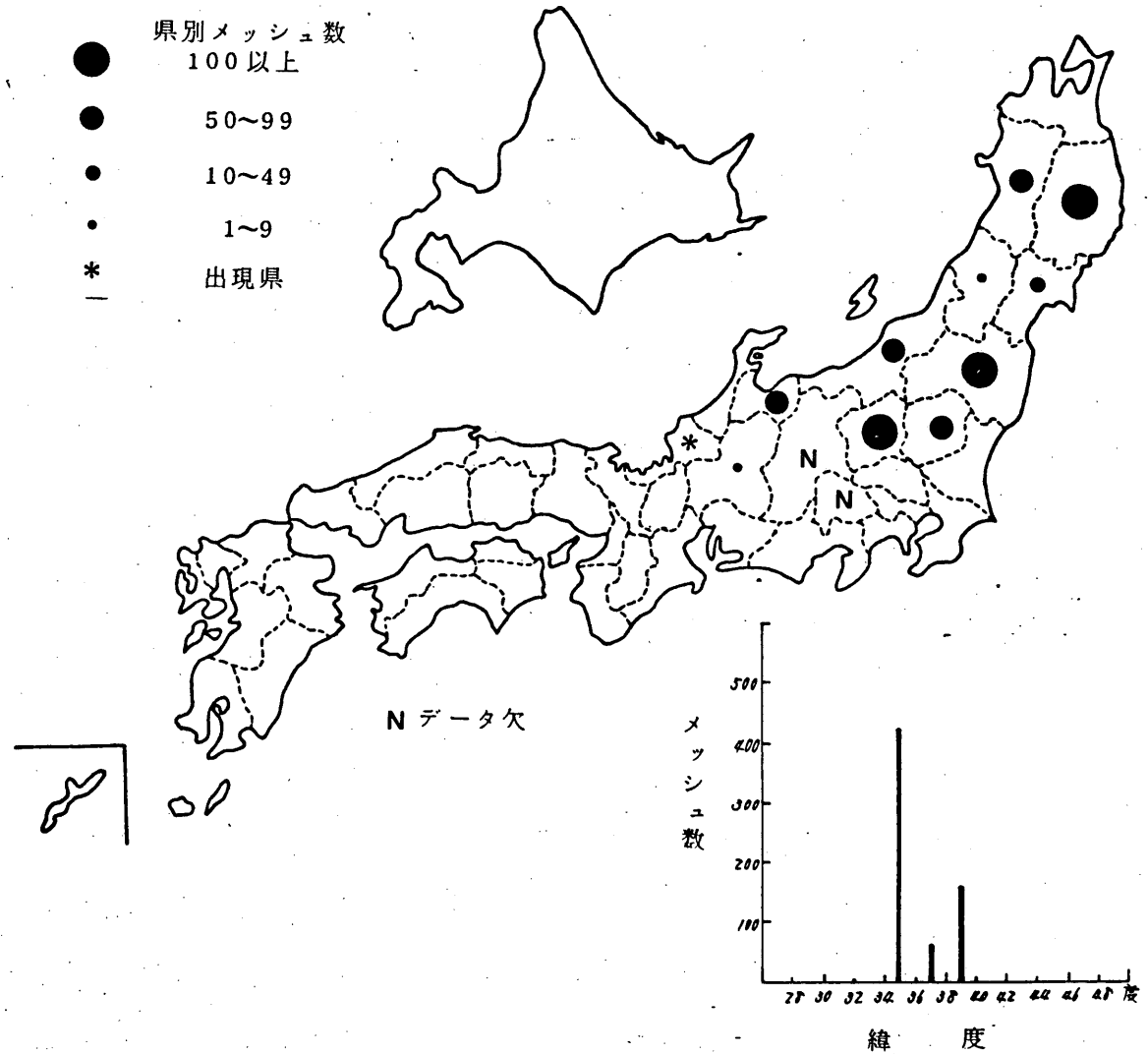
〈群落の特徴〉常緑針葉樹のオオシラビソが優占する高木林、亜高木林である。亜高山帯。日本海側風衝面に広く発達している。

〈分布〉青森県から福井、岐阜、静岡県までの北日本日本海側に分布している。

〈その他〉森林の伐採により腐朽れ現象が誘発されやすいため特に影響。大きな北西向、南向斜面の破壊は禁止することが望ましい。道路開設の際には根元のクメタテを避ける必要がある。

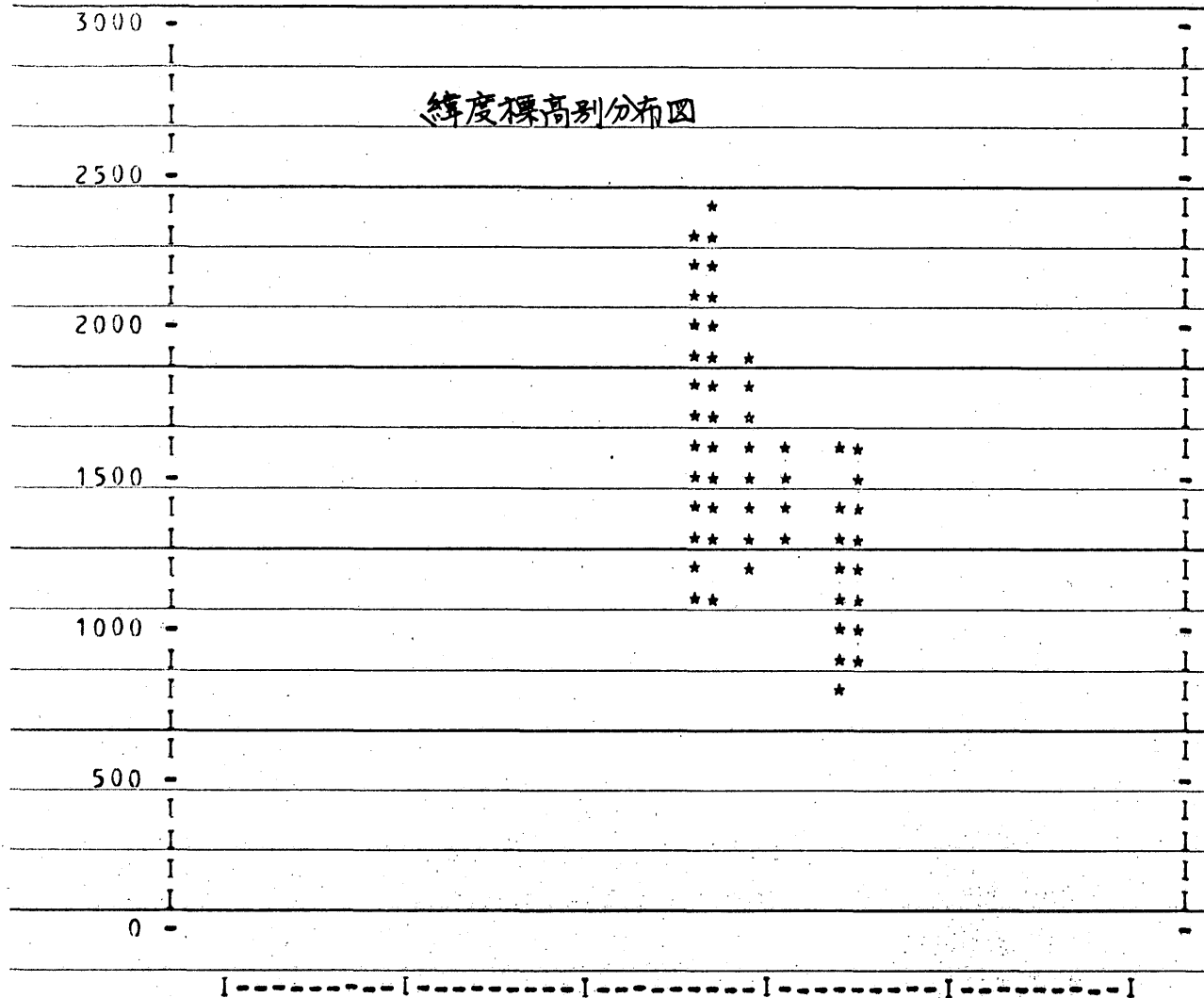
\*20501 オオシラビソ群集

- 100以上
- 50~99
- 10~49
- 1~9
- \* 出現県



コード	群落名	メッシュ数	出現県
20501A	オオシラビソ群集	640	岩手, 宮城, 秋田, 福島, 栃木, 群馬, 新潟, 高知, 福井, 岐阜
20501B	オオシラビソ (アズミトドモ) 群落	5	山形
	計	645	

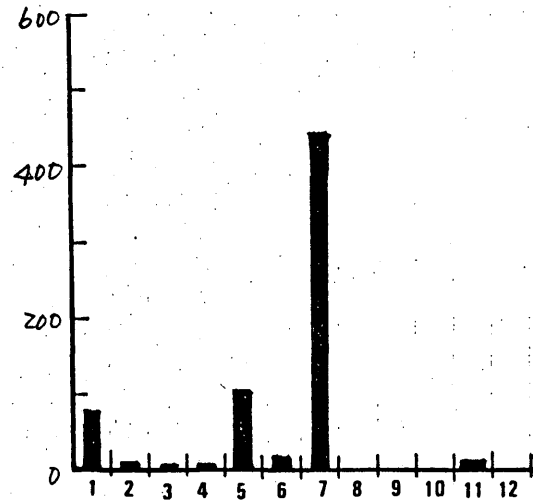
緯度標高別分布図



メッシュ数

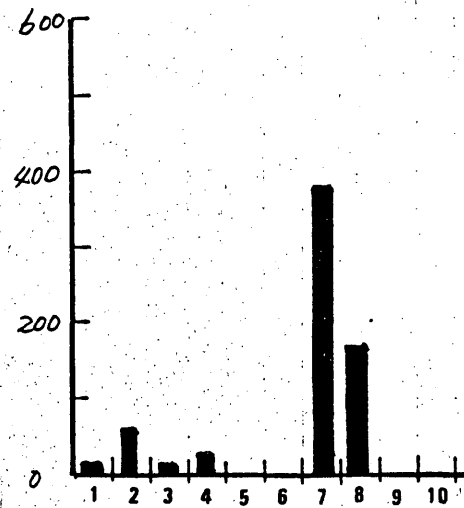
メッシュ数

土壌区分別頻度図



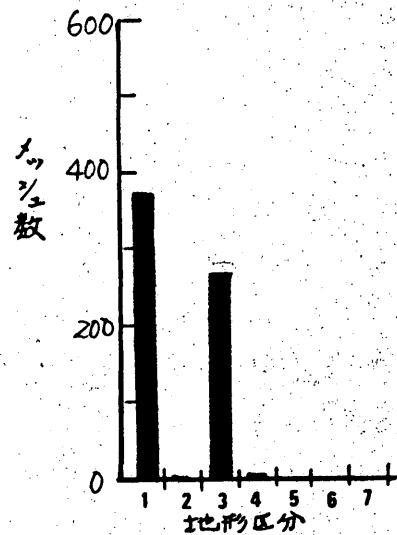
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホトソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

地質(岩石)区分別頻度図



- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

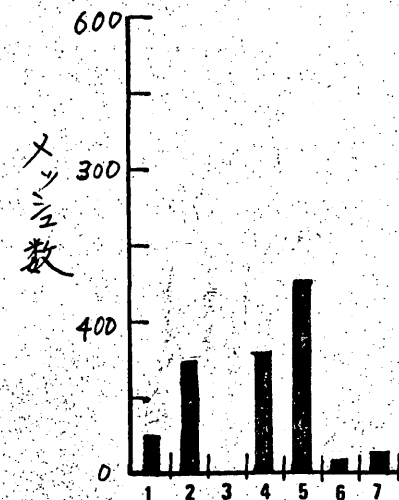
26 30 34 38 42 46 (1°)



地形区分別頻度図

- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 残丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂州

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

シラビソ-トウヒ群団  
シラビソ-オオシラビソ群集

Abieto - Piceion  
Abietum veitchii - mariesii

〈相観〉常緑針葉樹の高木林，亜高木林，低木林。群落高は数mから25mに及ぶ。発達した群落では5層構造となっている。

〈生育地〉亜高山帯上部の太平洋側を中心に分布している。緩傾斜地を中心に安定した立地を占め，稜線付近の乾性地から凹状傾斜地の適潤地まで広がっている。

〈種組成〉高木層には本州中部ではシラビソ，オオシラビソが優占し，四国ではシラビソの変種シコクシラベが優占している。この地，トウヒ，コメツカなどの常緑針葉樹やダケカンバ，ナカマドなどの落葉広葉樹が混生する。亜高木層は高木層とほぼ同様の樹種によって構成されている。低木層にはコヨウラククワシ，オオカメノキ，オオバノキ，ウスノキなどの落葉広葉樹やアズマシヤクナゲなどの常緑広葉樹が生育し，四国ではイシヅケガサ，イシヅケキイケゴなども交えている。高木層の欠けた部分では亜高木と低木の生育密度が特に高い。草本層にはタケシマラン，ゴゼンタケバナ，マイヅルソウ，ミフバオウレン，ゴカヨウオウレンなど常緑および落葉の小型植物が生育している。またコケ層にはツケハイゴケ，イワダレゴケ，シツノゴケなどが生育している。この群落はシラビソ，オオシラビソ，トウヒを特徴種とするシラビソ-オオシラビソ群集，シコクシラベを特徴種とするシコクシラベ群集（群落）にとらえられる。

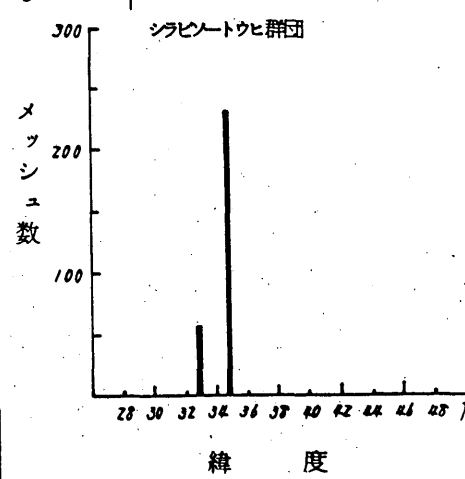
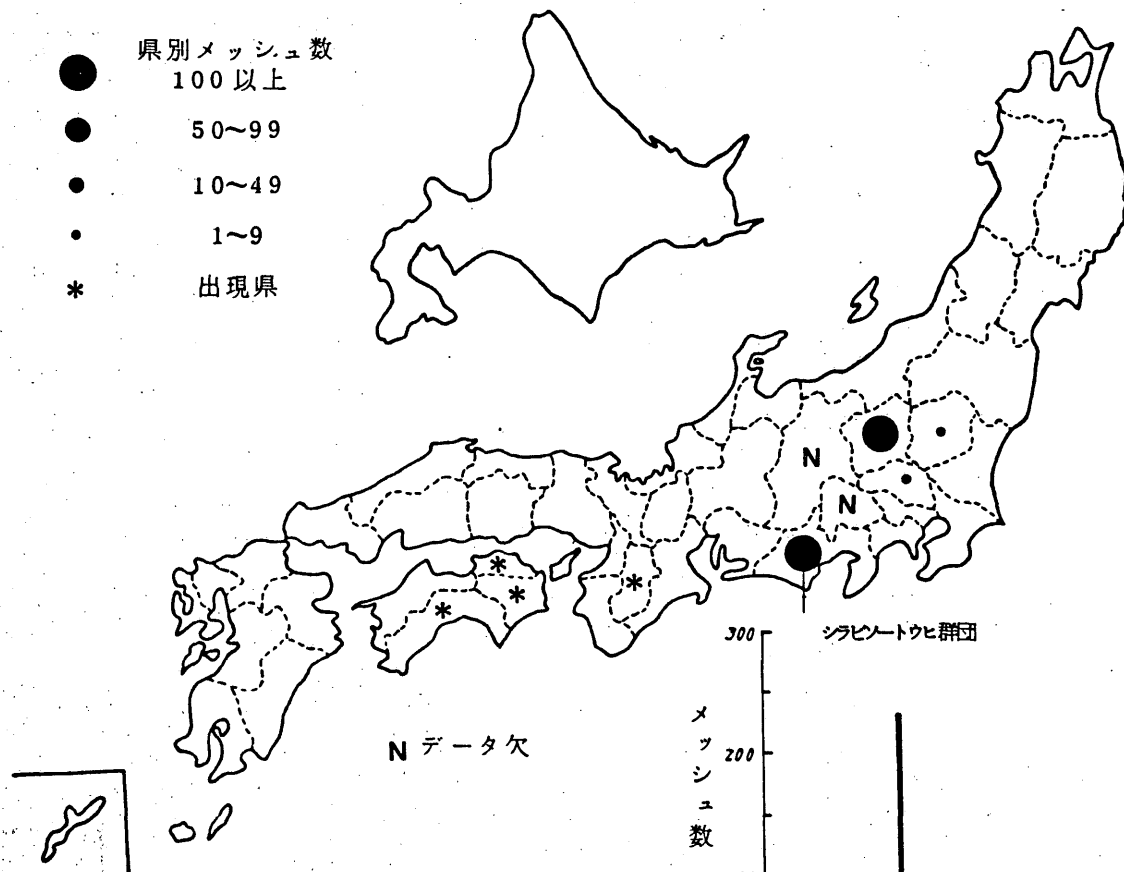
〈群落の特徴〉亜高山帯の上部，太平洋側に分布するシラビソ，オオシラビソ，シコクシラベなどの優占する常緑針葉樹高木林である。

〈分布〉亜高山帯上部，太平洋側に分布している。シラビソ-オオシラビソ群集は本州中部の中央高原型気候域に分布の中心があり，シコクシラベ群集は四国山地に分布している。

〈その他〉一般に亜高山帯下部に発達しているコメツカ群落の上限付近からみられる。高拓れ現象がみられ，道路開設に伴う森林の伐採などには考慮を要する。静岡県のシラビソ-オオシラビソ群集はシラビソ-トウヒ群団として表示されているが，同群集と同義で扱われており，同群集に一括して扱う方が適当であると考えられる。

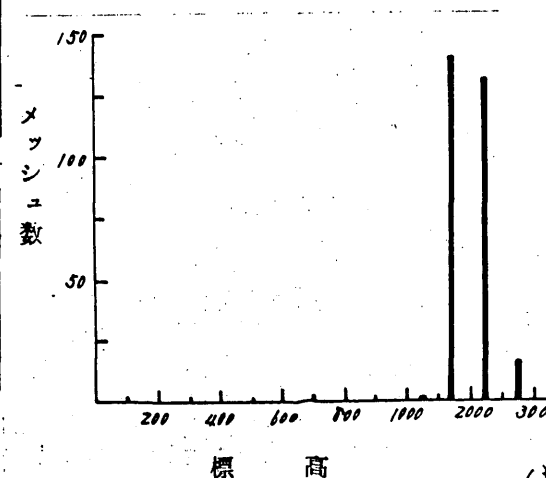
\*20500 シラビソ-トウヒ群団  
\*20502 シラビソ-オオシラビソ群集

- 100以上
- 50~99
- 10~49
- 1~9
- \* 出現県



コード	群落名	メッシュ数	出現県
20502A	シラビソ-オオシラビソ群集	109	栃木, 群馬, 埼玉, 奈良
20502B	シコクシラベ群集	0	徳島, 香川, 高知
20502C	シコクシラベ群落	-	
	計	109	

コード	群落名	メッシュ数	出現県
20500	シラビソ-トウヒ群団	182	静岡
	計	182	

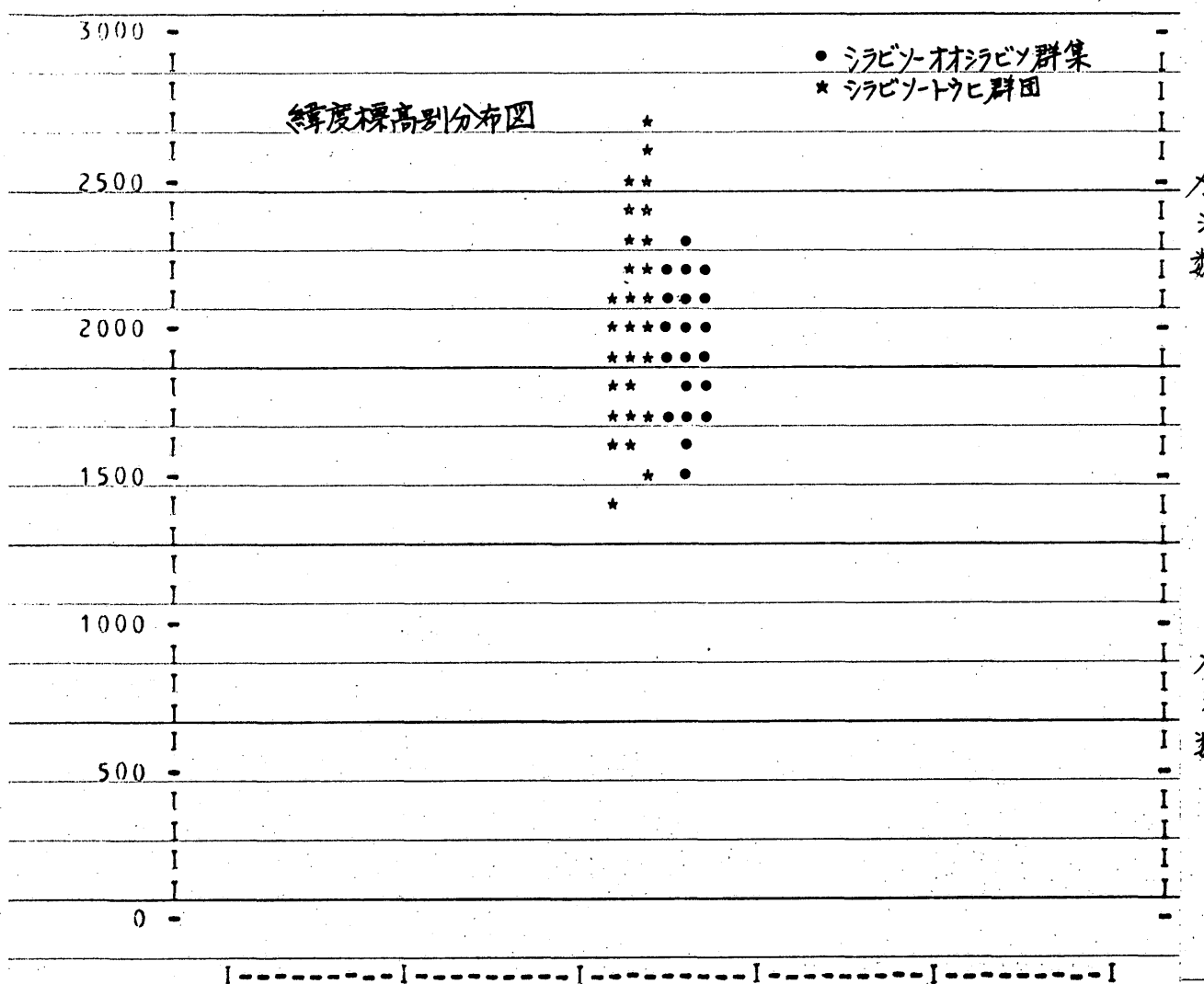




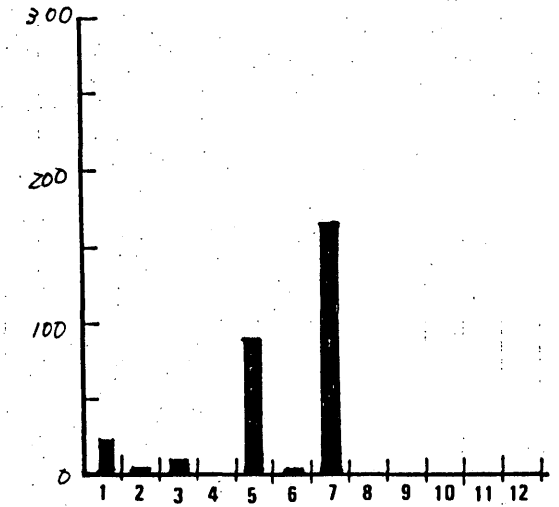
(ヒコウ)

-----

緯度標高別分布図

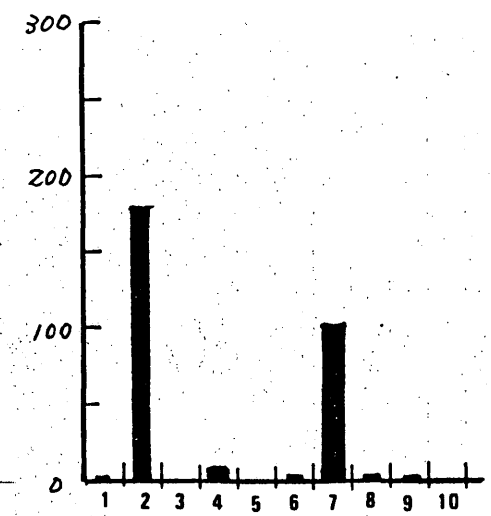


土壌区分別頻度図



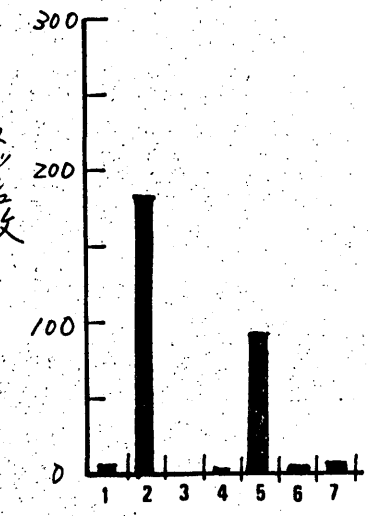
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホトソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

地質(岩石)区分別頻度図



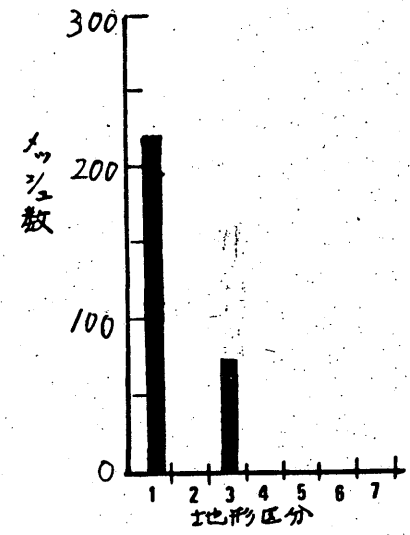
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 緩丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂洲

コメツガ群落 *Tsuga diversitolia* community

<相観> 常緑針葉樹の高木林, 亜高木林。群落高は10~20m程度である。

<生育地> 亜高山帯の露岩地, 急傾斜地, 比較的新しい火山地など, 貧養な乾性土地に分布している。太平洋側の山地ではコメツガ群落は亜高山帯下部, シラビソ-オオシラビソ群集が上部にと, 生育地を分けている。

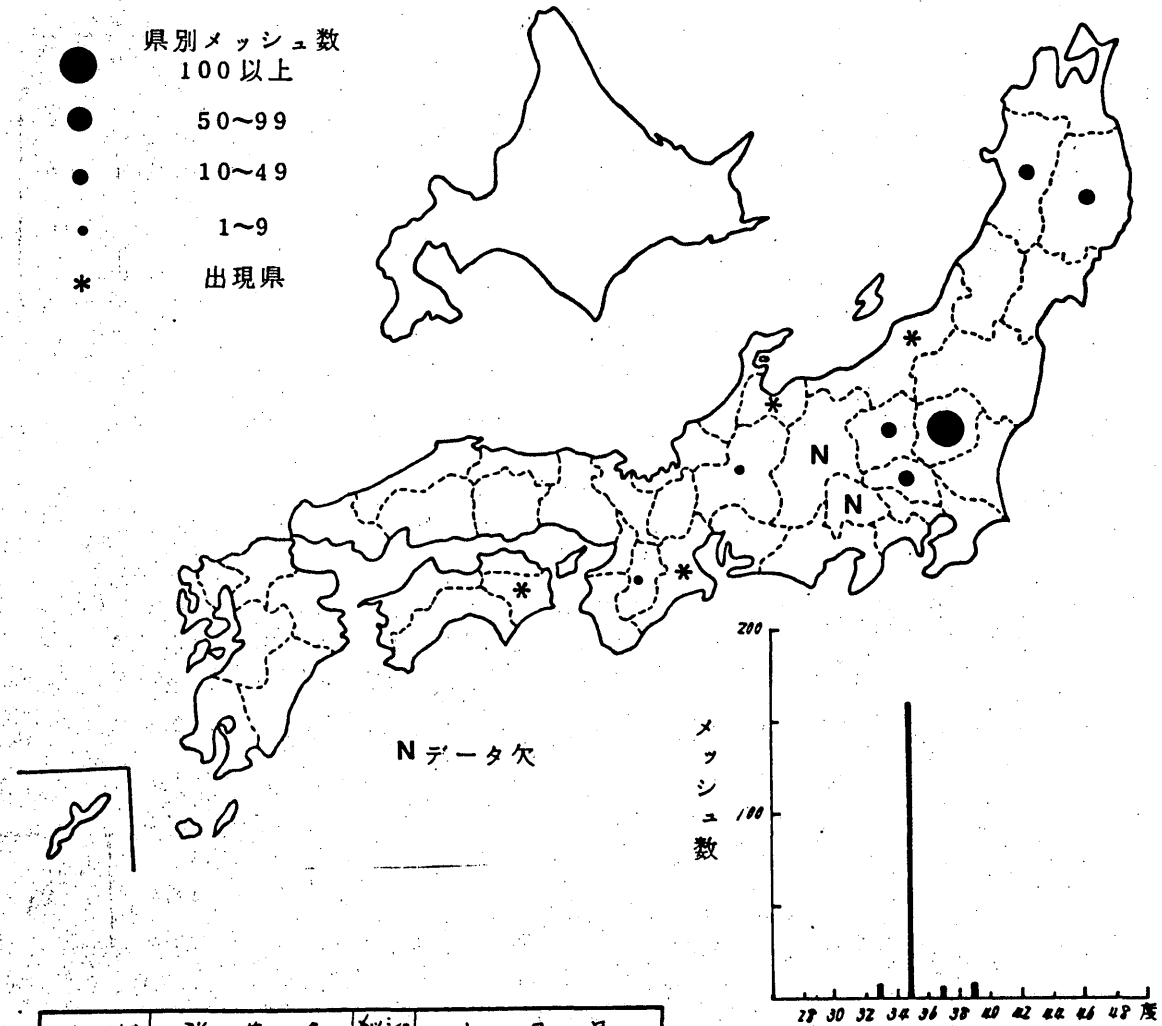
<種組成> 高木層にはコメツガが優占し, この他, クロベ, キタゴウなどの常緑広葉樹が混生し, 関東西北部および中部地方ではシゾウカンバなどの落葉広葉樹を混えている。亜高木層にはコメツガの他, サビバナナカマド, オオカメノキ, オガラバナ, ベニサラサドランなどの落葉広葉樹が生育している。低木層にはコヨウラクソウジ, マンサツ, ハフサンシマフナゲ, アズマシマフナゲなどが生育している。草本層にはシノブカグマ, ミヤコワラビ, シラネワラビなどのシタ植物や, ミヤコササ, クマイササ, ススタケなどのササ類が優占することが多く, その他, コセンタケハナ, ミソバオウレン, マイフルソウ, ゴカヨウオウレン, ユキササなどが混生している。またイワダレコケ, タケハイゴケなどを主とするコケ層が発達することもある。

<群落の特徴> 亜高山帯下部, 太平洋側を中心とした乾性地に分布する, コメツガの優占する常緑針葉樹高木林である。

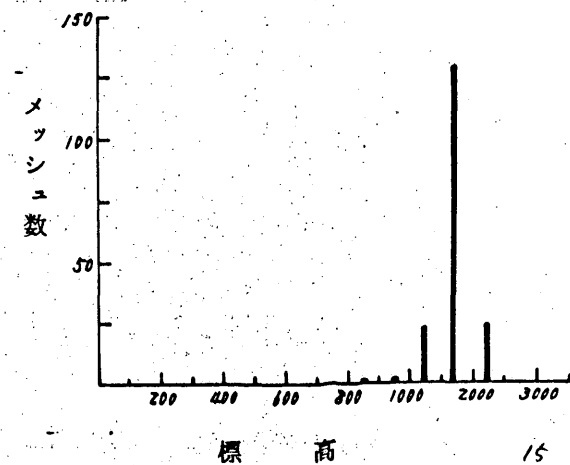
<分布> 岩手県から徳島県までの太平洋側を中心に分布している。日本海側には多雪と冬季季節風の影響であまり発達していない。

\*20503 コメツガ群落

- 県別メッシュ数 100以上
- 50~99
- 10~49
- 1~9
- \* 出現県



コード	群落名	メッシュ数	出現県
20503A	コメツガ群落	193	岩手, 秋田, 栃木, 群馬, 埼玉, 新潟, 富山, 岐阜, 三重, 奈良, 徳島
20503B	コメツガ群集	-	
20503C	コメツガ亜群集	-	
	計	193	

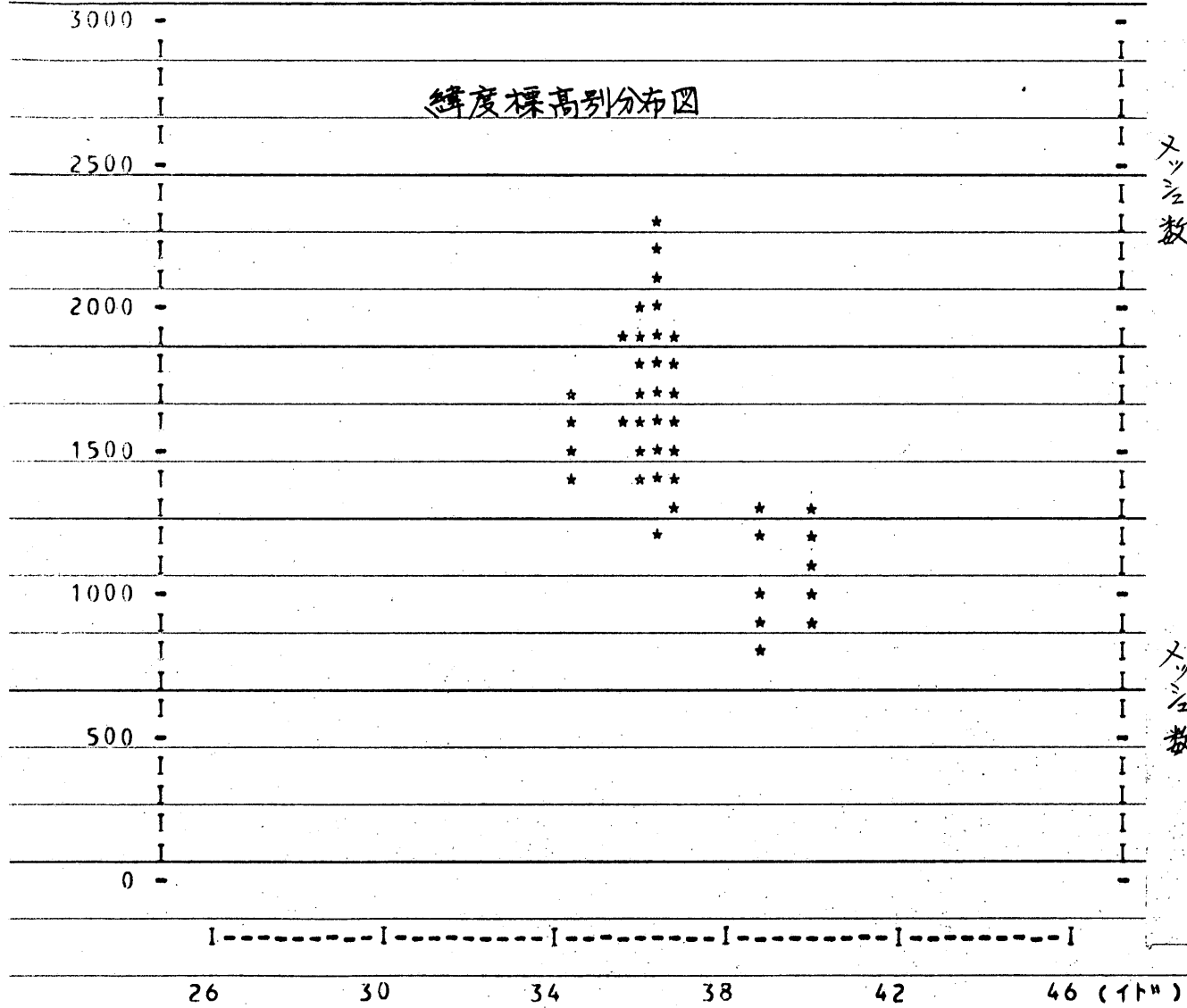


(ヒヨウカ)

# コメツガ群落

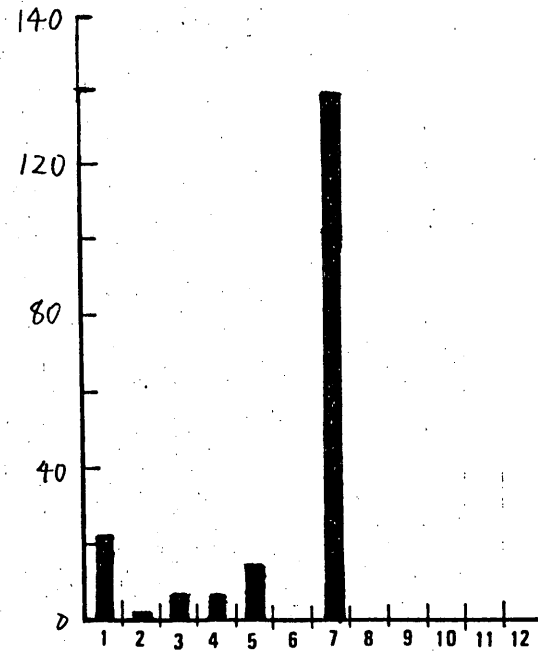
( \*20503 )

### 緯度標高別分布図



メッシュ数

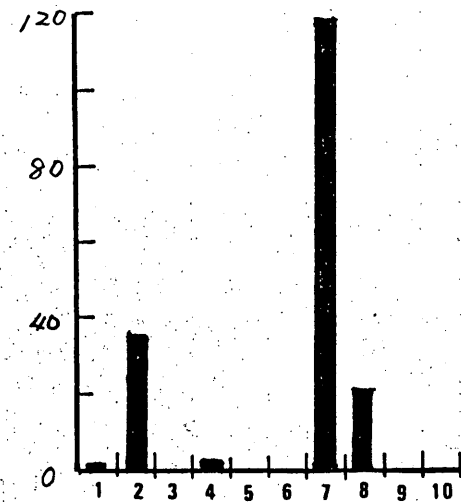
メッシュ数



### 土壌区分別頻度図

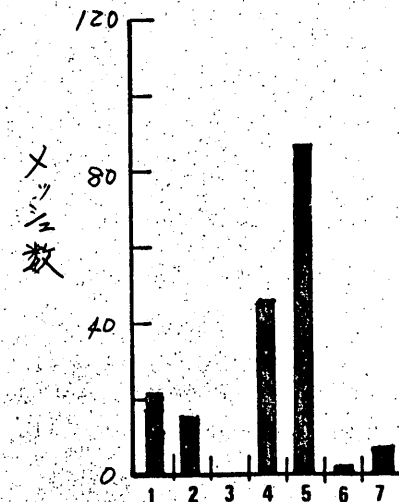
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

### 地質(岩石)区分別頻度図



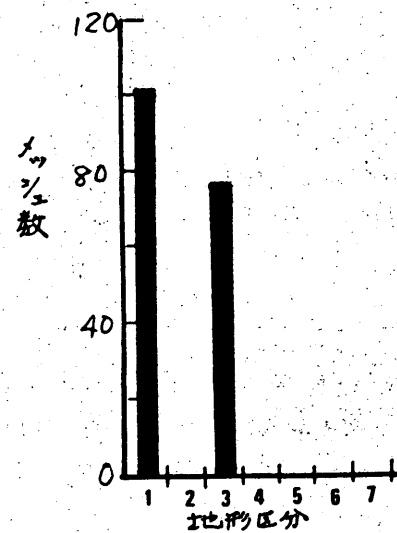
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

### 地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

### 地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 残丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂州

ササ-ダケカンバ群落 *Sasa* spp.-*Betula ermanii* community

<相観> 落葉広葉樹の高木林, 亜高木林。時に低木林。群落高は15~20mに達する。優占種のダケカンバは立地条件により直幹樹形と伏条幹樹形(つりはり状の樹形)をなす。

<生育地> フナフラス域上部から亜高山帯上部の比較的積雪量の多いところに分布する。高山山頂付近や沿岸斜面上部の雪崩頻発地帯に広くみられるが、日本海側では南、西向の融雪がやや遅い斜面や雪崩の少ないところでよく発達している。秩父山地では針葉樹林の前壊跡地に成立している。

<種組成> 高木層にダケカンバが優占し、その他オカラバナ、ミネカエデなどの落葉広葉樹が混生している。低木層にはチシマササが密生し、アカミノイヌワケ、ハクサンシャクナゲ、ウラジロヨウライなども生育している。草本層にはミヤマメシタ、シラネフリス、オオバタケシマラン、ヒロハユキササ、ミミジカラマツなどが生育している。この群落は林床に優占するチシマササなどのササ類によってササ-ダケカンバ群落にまとめられる。

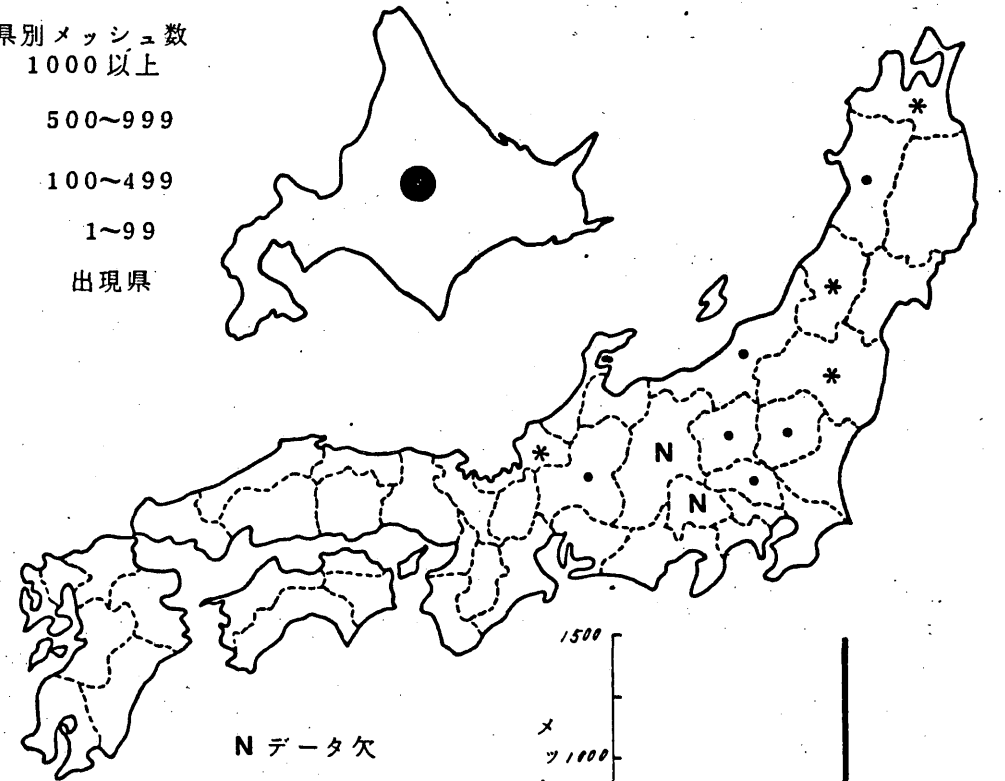
<群落の特徴> 亜高山帯の雪崩の影響を強く受ける立地に、針葉樹林生育地に隣接して配列する落葉広葉樹の高木、亜高木林である。高木層にはダケカンバが優占し、低木層はササが優占している。

<分布> 山形県蔵王山から福井県二ノ峰、三ノ峰周辺までの亜高山帯多雪地に分布している。

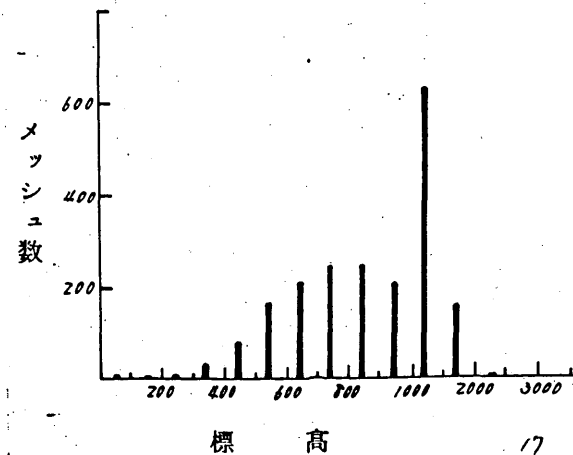
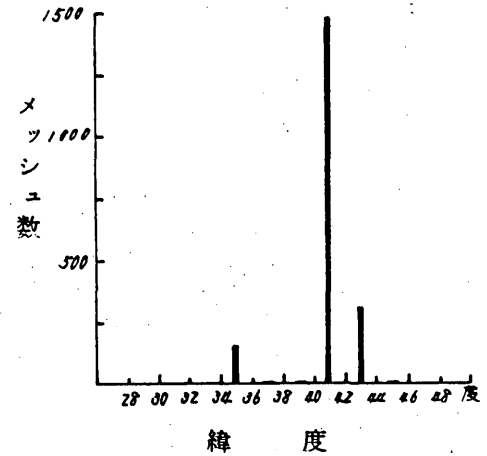
<その他> ササ-ダケカンバ群落はミドリユキササ-ダケカンバ群団に含まれる群落であると考えられる。前者は高木層にダケカンバ、低木層にササが優占することによって特徴づけられるが、後者は高木層にダケカンバ、ミヤマハンノキ、ヤハズハンノキなど数種が優占し、草本層に高差草本植物が優占することを特徴としている。しかし、両者は共通種が多く、種組成上、前者は後者に含まれる群落であると考えられる。生育地、分布上はやや差異があり、ササ-ダケカンバ群落は亜高山帯下部を中心とした比較的積雪量の多いところに分布し、ミドリユキササ-ダケカンバ群団は亜高山帯上部を中心としたより積雪量の多いところに分布している。

\*20600 ササ-ダケカンバ群落

- 県別メッシュ数 1000以上
- 500~999
- 100~499
- 1~99
- \* 出現県

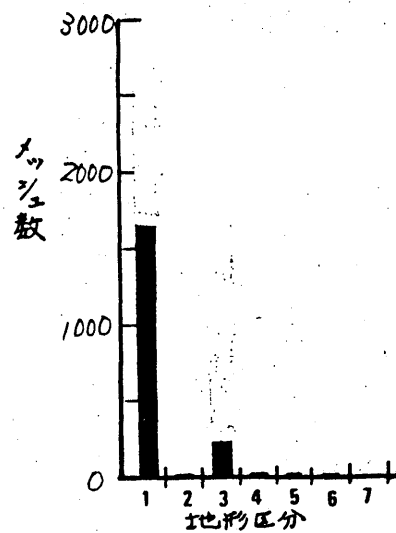
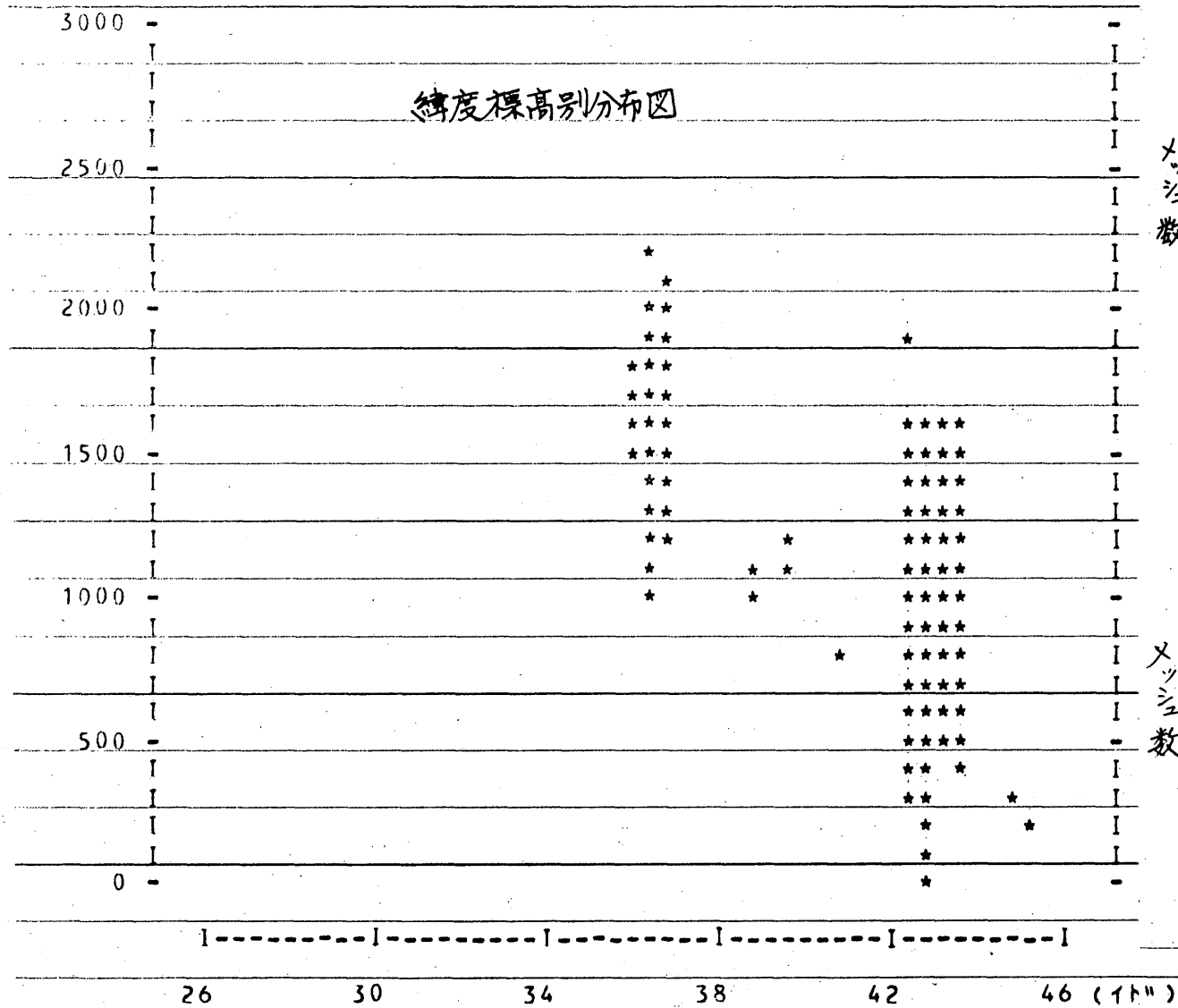


N データ欠



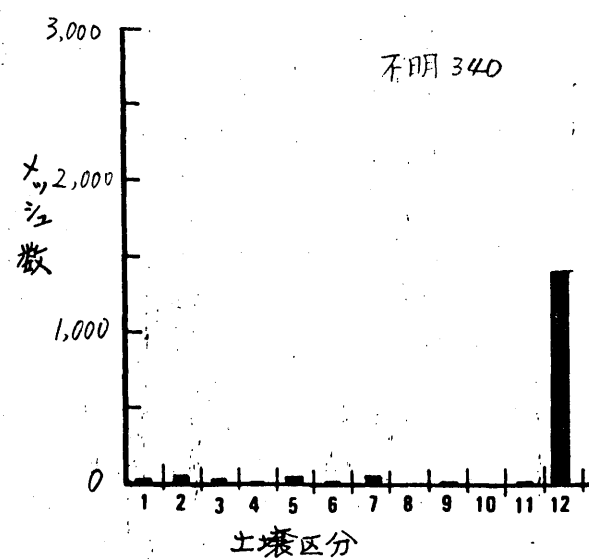
コード	群落名	メッシュ数	出現県
20600A	ササ-ダケカンバ群落	1959	北海道, 青森, 秋田, 福島, 群馬, 新潟, 福井, 岐阜
20600B	ダケカンバ-ササ群落	32	山形, 栃木, 埼玉
	計	1991	

緯度標高別分布図



地形区分別頻度図

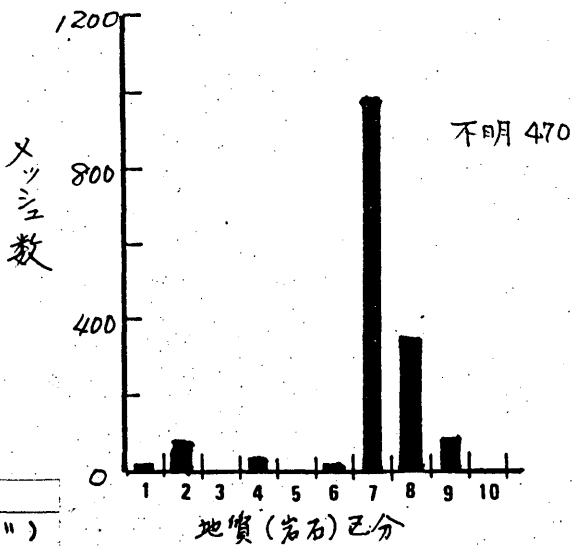
- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、残丘
- 6 低地
- 7 河川、砂洲



土壌区分別頻度図

- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ポドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

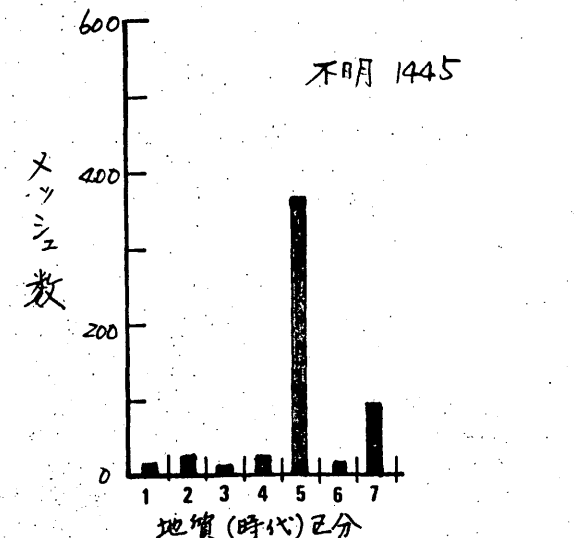
(凡例改訂が行われ  
たところ、北海道の  
4, 5, 6を合ると  
考えられる。)



地質(岩石)区分別頻度図

- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩、凝灰岩、流紋岩、安山岩、玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

ミドリユキザサ-ダケカンバ群団 Smilacino yezoensis-Betulion ermanii

<相観> 落葉広葉樹の高木林, 亜高木林, 低木林。優占種のダケカンバは幹の基部は谷の方向に匍匐し, 上部で弓状に枝を開げる伏条幹樹形をなしている。群落高は3~8m位である。

<生育地> 亜高山帯から高山帯下部にかけての積雪量の多いところに分布している。雪崩の影響を強く受ける斜面や谷間に面した不安定地にみられる。一般に針葉樹林帯の上部に広く分布するが, 日本海側の冬季季節風の強い風衝第一線の山稜では針葉樹林帯を欠き, ブナクラス域上部に発達する。表土はやや厚く, やや湿潤である。

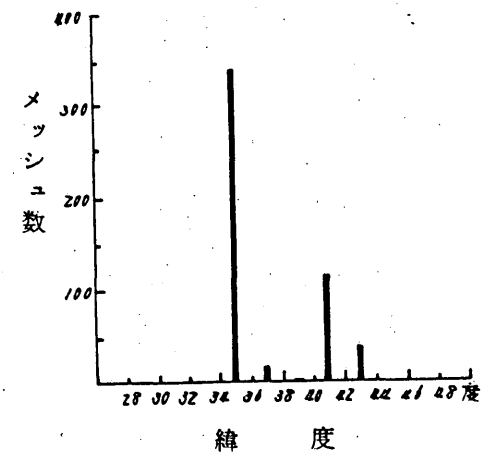
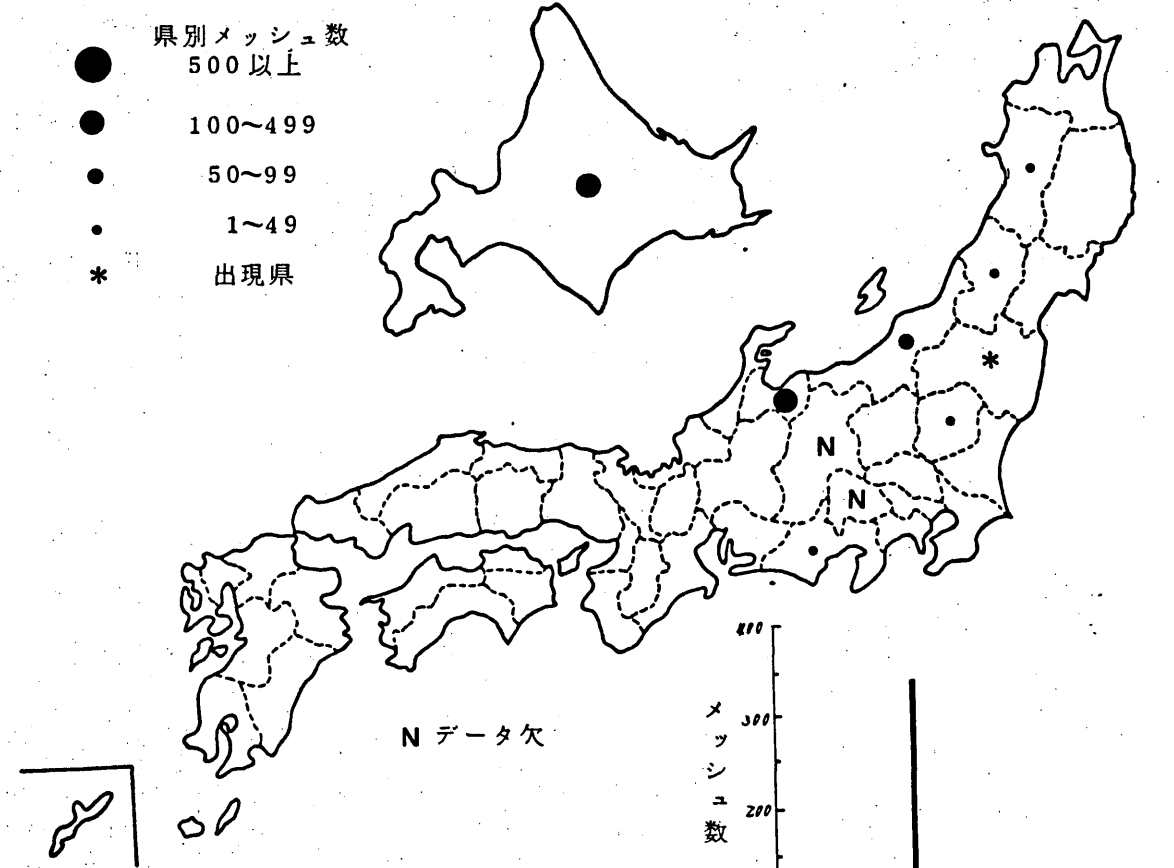
<種組成> 高木層には谷沿いでミヤマハンノキが, 山腹斜面ではダケカンバが優占し, 新潟県北部以北ではヤハズハンノキが優占している。その他, オカラバナ, ミネカエデなどの落葉広葉樹が混生している。低木層にはクマイササやチシマカサなどのササ類, ウラジロコウラク, ミヤマソフツレ, ミネヤナギ, ムラサキヤシオ, ナナカマド, オオヒョウタンボクなどの落葉広葉樹が広範に生育している。草本層にはシラネフラスビ, オシタ, オオメシタなどのシダ類, オオバノヨフバムグラ, マイフルソウ, ミヤマエンレイソウ, オオバユキザサ, モミシカラマツなどが高常在種でみられ, その他高草の草本植物が多い。四国ではイヨウワロ, イシブケイイネゴなど乾性地に生育する植物が出現している。

<分布> 亜高山帯に広く分布している。北海道から本州の岐阜県白山, 静岡県赤石山脈まで断続的にあらわれ, 四国の石鎚山脈にもみられる。

<群落の特徴> 亜高山帯上部を中心とした多雪地に分布する落葉広葉樹林である。幹基部の屈曲したダケカンバが優占し, 林床には高草草本植物が密生している。

\*20800 ミドリユキザサ-ダケカンバ群落

- 500以上
- 100~499
- 50~99
- 1~49
- \* 出現県



コード	群落名	メッシュ数	出現県
20800A	ミドリユキザサ-ダケカンバ群団	271	福島, 富山, 静岡
20800B	ダケカンバ-ハイマツ群落	0	北海道
20800C	ダケカンバ-イワガリヤス群落	0	北海道
20800D	ミヤマハンノキ-ダケカンバ群落	6	山形, 新潟
20800E	ミヤマハンノキ群落	3	秋田
20800F	ミヤマハンノキ-ダケカンバ群落	238	北海道, 栃木, 新潟*
	計	518	

\*1県で2群落以上出現する場合, メッシュ数のもとより, 群落

